

CA ARCserve® Backup for Windows

Agent for Microsoft SharePoint Server ユーザ
ガイド

r16.5



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複製することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルセットで参照されている CA Technologies 製品は以下のとおりです。

- BrightStor® Enterprise Backup
- CA Antivirus
- CA ARCserve® Assured Recovery™
- CA ARCserve® Backup Agent for Advantage™ Ingres®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Linux Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Microsoft Windows Essential Business Server
- CA ARCserve® Backup for UNIX Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Virtual Machines

- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA ARCserve® Backup Patch Manager
- CA ARCserve® Backup UNIX/Linux Data Mover
- CA ARCserve® Central Host-Based VM Backup
- CA ARCserve® Central Protection Manager
- CA ARCserve® Central Reporting
- CA ARCserve® Central Virtual Standby
- CA ARCserve® D2D
- CA ARCserve® D2D On Demand
- CA ARCserve® High Availability
- CA ARCserve® Replication
- CA VM:Tape for z/VM
- CA 1® Tape Management
- Common Services™
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

マニュアルの変更点

本マニュアルでは、前回のリリース以降に、以下の点を更新しています。

- 製品およびドキュメント自体の利便性と理解の向上に役立つことを目的として、ユーザのフィードバック、拡張機能、修正、その他小規模な変更を反映するために更新されました。
- 「[インストールの前提条件](#) (P. 15)」が更新され、Agent for Open Files のインストールに関する情報が含まれるようになりました。
- このドキュメントは、SharePoint Server 2010 と機能が類似する SharePoint Server 2013 についても記載するように更新されました。SharePoint Server 2010 に関するすべての記述は、SharePoint Server 2010/2013 によって置き換えられています。

目次

第 1 章: エージェントの紹介	11
エージェントの特徴.....	11
SharePoint Server 2010/2013 の機能	12
SharePoint Server 2007 の機能.....	12
Microsoft SharePoint Server のサポート	13
SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作	14
第 2 章: エージェントのインストール	15
環境に関する考慮事項.....	15
インストールの前提条件.....	15
Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールに関する考慮事項.....	17
エージェントのインストール	18
Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログ ボックス.....	19
SharePoint システムでのエージェントの設定	25
第 3 章: SharePoint 2010/2013 システムのバックアップ	27
SharePoint 2010/2013 でのバックアップの概要.....	27
2010/2013 でのデータベース レベルバックアップの前提条件.....	27
SharePoint 2010/2013 でフルバックアップを実行する方法.....	28
2010/2013 でのバックアップに関する考慮事項.....	29
SharePoint Server 2010/2013 のバックアップ オプション ダイアログ ボックス	30
エージェントバックアップ オプション	34
SharePoint Server 2010/2013 でのデータベース レベルのバックアップ.....	37
第 4 章: SharePoint 2007 システムのバックアップ	41
SharePoint 2007 でのバックアップの概要	41
データベース レベルのバックアップ前提条件	41
フルバックアップの実行方法	42
バックアップの考慮事項.....	43
データベース レベル エージェント バックアップ オプション ダイアログ ボックス	44
SharePoint Server 2007 でのデータベース レベルのバックアップ.....	47

第 5 章: SharePoint 2010/2013 システムのリストア 49

SharePoint Server 2010/2013 のリストアの概要.....	49
SharePoint Server 2010/2013 でのデータベース レベル リストア セット	50
SharePoint Server 2010/2013 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス	50
SharePoint Server 2010/2013 のデータベース レベル リストア オプション ダイアログ ボックス.....	51
SharePoint Server 2010/2013 のリストア環境設定	53
SharePoint Server 2010/2013 のデータベース レベル リストア前提条件の SharePoint Server リストア環境設定.....	54
SharePoint Server 2010/2013 の SharePoint Server リストア環境設定のデータベース レベル リストアの実行.....	56
SharePoint 2010/2013 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス.....	60
SharePoint 2010/2013 Agent リストア環境設定ダイアログ ボックス.....	63
ドキュメント レベル リストアのデスティネーションフォルダ.....	64
SharePoint 2010/2013 で元の場所へのドキュメント レベル リストアを実行	65
SharePoint 2010/2013 で別の場所へのドキュメント レベル リストアを実行	67

第 6 章: SharePoint 2007 システムのリストア 73

リストアの概要.....	73
データベース レベルのリストア セット	74
SharePoint Server 2007 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス	74
SharePoint 2007 のデータベース レベル リストア オプション ダイアログ ボックス.....	75
リストア環境設定.....	77
データベース レベルのリストアの前提条件	78
データベース レベルのデータ リストアの実行	80
SharePoint 2007 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス	84
[SharePoint 2007 Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックス	87
SharePoint 2007 の元の場所へのドキュメント レベル リストアの実行.....	89
SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメント レベル リストアの実行.....	91
Agent for Microsoft SharePoint Server の制限	93

第 7 章: 推奨事項 95

適切な場所の選択方法.....	95
ダンプの場所へのアクセス権の設定	96

付録 A: エージェントによって使用される Microsoft SharePoint Server の機能 99

Microsoft SharePoint Server 2013 の機能	99
Microsoft SharePoint 2013 データ	100

Microsoft SharePoint Server 2010 の機能	103
Microsoft SharePoint 2010 データ	104
Microsoft SharePoint Server 2007 の機能	106
Microsoft SharePoint 2007 データ	107
付録 B: 惨事復旧	109
SharePoint 2010/2013 システム上でのデータベース レベルの惨事復旧の実行方法	109
SharePoint 2007 システム上でのデータベース レベルの惨事復旧の実行方法	110
付録 C: Microsoft SQL Server のセキュリティ設定	111
Microsoft SQL 認証の種類	111
認証要件.....	111
Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更	112
付録 D: トラブルシューティング	113
AE9972	113
サイト コレクションを元の場所へリストアできない	114
用語集	115

第 1 章: エージェントの紹介

CA ARCserve Backup は、アプリケーション、データベース、分散サーバおよびファイルシステム向けの包括的かつ分散的なストレージソリューションです。データベース、ビジネスクリティカルなアプリケーション、およびネットワーククライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

CA ARCserve Backup が提供するエージェントの 1 つに、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server があります。このエージェントを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010/2013、Microsoft Office SharePoint Server 2007、Microsoft SharePoint Foundation 2010、Microsoft Windows SharePoint Services 3.0 のデータをバックアップおよびリストアできます。

SharePoint 環境は複雑で多くのマシンに分散されますが、エージェントは、すべての SharePoint データを CA ARCserve Backup サーバにあるインターフェースのシングルノードに統合することで、SharePoint インストールの完全な保護を提供します。SharePoint のコンテンツは、SharePoint 分散データベース、シングルサインオン (SSO)、検索インデックスで構成されます。エージェントを使用すると、CA ARCserve Backup の機能を使って、ネットワークにあるすべての SharePoint データのバックアップとリストアを簡単に管理できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[エージェントの特徴 \(P. 11\)](#)

[Microsoft SharePoint Server のサポート \(P. 13\)](#)

[SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作 \(P. 14\)](#)

エージェントの特徴

Agent for Microsoft SharePoint Server は、バックアップおよびリストアの処理を容易にする多くの機能を提供します。現在のところ、Microsoft SharePoint Server 2010/2013、Microsoft Office SharePoint Server 2007、Microsoft SharePoint Foundation 2010/2013、Microsoft Windows SharePoint Services 3.0 に対するバックアップおよびリストア機能が提供されています。

SharePoint Server 2010/2013 の機能

SharePoint Server 2010/2013 に対しては、エージェントによって以下の機能がサポートされます。

- SharePoint Server 2010/2013 ファームとファーム コンポーネントをバックアップおよびリストアします。

注: さまざまなファーム コンポーネントの詳細については、「[Microsoft SharePoint Server 2010/2013 の機能 \(P. 103\)](#)」を参照してください。

- SharePoint データを元の場所または異なるデスティネーションにリストアするよう指定できます。
- 幅広い種類のストレージデバイスへのバックアップをサポートします。
- 環境設定のみをバックアップするオプション、および内容と環境設定をバックアップするオプションをサポートします。
- 環境設定のみをリストアするオプション、および内容と環境設定をリストアするオプションをサポートします。
- フェールオーバーデータベース サーバ用のデータベース レベルバックアップおよびデータベース レベルおよびドキュメント レベルリストアをサポートします。
- ドキュメント レベルまたは詳細レベルでのリストアをサポートします。

SharePoint Server 2007 の機能

SharePoint Server 2007 に対しては、エージェントによって以下の機能がサポートされます。

- SharePoint Server 2007 ファームおよびファーム コンポーネントのバックアップおよびリストア サポートされるファーム コンポーネントの詳細については、「[Microsoft SharePoint Server 2007 の機能 \(P. 106\)](#)」を参照してください。

- SharePoint データを元の場所または異なるデスティネーションにリストアするよう指定できます。
- 幅広い種類のストレージデバイスへのバックアップをサポートします。
- ドキュメント レベルまたは詳細レベルでのリストアをサポートします。

Microsoft SharePoint Server のサポート

以下の表に、Agent for Microsoft SharePoint Server が動作する Microsoft SharePoint Server のバージョンおよびサポートする Windows オペレーティングシステムを示します。

	Microsoft SharePoint Server 2007	Microsoft SharePoint Server 2007 SP1	Microsoft SharePoint Server 2007 SP2	Microsoft SharePoint Server 2010	Microsoft Sharepoint Server 2013
Windows Server 2003 (x86)	○	○	○	x	x
Windows Server 2003 (x64)	○	○	○	x	x
Windows Server 2008 (x86)	x	○	○	x	x
Windows Server 2008 (x64)	x	○	○	○	x
Windows Server 2008 R2	x	x	○	○	○
Windows Server 2012	x	x	x	x	○

SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作

CA ARCserve Backup と Agent for Microsoft SharePoint Server は連携して SharePoint Server データをバックアップおよびリストアします。CA ARCserve Backup がデータをバックアップする際、サーバはエージェントに接続してリクエストを送信します。エージェントは SharePoint Server からデータを取得し、ディスク上のダンプフォルダにデータをエクスポートしてから、CA ARCserve Backup にデータを送信します。ここでデータがメディアにバックアップされます。リストアの際もエージェントは同様に動作し、バックアップされたデータを CA ARCserve Backup からサーバに転送する処理をサポートします。

第 2 章: エージェントのインストール

この章では、SharePoint 2010/2013 システムおよび SharePoint 2007 システムへの Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールと環境設定について説明します。このセクションの説明は、読者が Microsoft SharePoint Server ファームの一般的な特徴と要件について熟知していることを前提としています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[環境に関する考慮事項](#) (P. 15)

[インストールの前提条件](#) (P. 15)

[エージェントのインストール](#) (P. 18)

環境に関する考慮事項

SharePoint 環境は複雑になる可能性があり、複数のマシンにわたって分散する場合があります。サーバファームの設定は、Microsoft によってサポートされています。例として、分散 SharePoint 環境には、以下のコンポーネントを含めることができます。

- 1つ以上の Web フロントエンドサーバ
- Windows SharePoint Service Help Search サービスが有効になったアプリケーションサーバ (複数可)。
- Office SharePoint Server Search サービスが有効になった Indexer サーバ (複数可)。
- SharePoint Server ファームによって使用されるデータベースサーバ (複数可)。

インストールの前提条件

SharePoint Server システムにエージェントをインストールする前に、以下の前提条件を満たす必要があります。

- Agent for Microsoft SharePoint Server をインストールするシステムが、インストールに必要な最小要件を満たしていることを確認します。要件の一覧については *Readme* を参照してください。

- ソフトウェアをインストールするコンピュータに対するシステム管理者（root ユーザ）権限または適切な権限を持っていることを確認します。
- **Agent for Microsoft SharePoint Server** 環境設定ウィザードに入力するユーザ名には、SharePoint Server ファーム内の全マシンへの管理者権限を持っている必要があります。
- **Microsoft SharePoint Server** ファームの管理者グループに属するアカウントを確認します。
- **Microsoft SharePoint Server** 製品、または **Microsoft SharePoint Service 3.0** 以降をインストールしたことを確認します。
- **Agent for Microsoft SharePoint Server** は、ファームが元々作成されたのと同じシステムで、**Central Administration** が実行されているシステムにインストールする必要があります。そうしないと、バックアップとリストアのジョブが失敗する可能性があります。

注: 保護している **Microsoft SharePoint** サーバに **CA ARCserve Backup Agent for Open Files** をインストールする必要はありません。 **Agent for Open Files** は、開いているファイルまたはアクティブなアプリケーションによって使用中であるファイルを保護する場合に役立ちます。 **Agent for Microsoft SharePoint Server** は、**Lotus Domino** サーバの保護に特化した専用エージェントなので、**Agent for Open Files** のすべての機能を活用した完全なソリューションが提供されます。

Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールに関する考慮事項

エージェントをインストールする際は、以下の点を考慮してください。

- Agent for Microsoft SharePoint Server をインストールする前に、Microsoft Office SharePoint Server 製品または Microsoft Windows Shared Service 3.0 以降をインストールする必要があります。このエージェントは、Microsoft Office SharePoint Server がサポートされているすべてのオペレーティング システムでサポートされています。
- CA ARCserve Backup サーバは、SharePoint 環境で、名前を使ってすべてのマシンに ping できる必要があります。SharePoint 環境で DNS（ドメイン ネーム システム）を使用していない場合は、SharePoint 環境にあるすべてのマシンを CA ARCserve Backup サーバの hosts ファイルに追加する必要があります。
- Microsoft SQL Server Windows サービスをドメイン アカウントまたはローカルシステム アカウントとして実行する必要があります。
- Agent for Microsoft SharePoint Server は、ファームが元々作成されたマシンで、Windows SharePoint Service Administration サービスが実行されているのと同じマシンにインストールする必要があります。そうしないと、バックアップ ジョブまたはリストア ジョブが失敗する可能性があります。
- CA ARCserve Backup サーバとエージェントサーバが異なるタイムゾーンにある場合、ジョブが正常に完了しない可能性があります。ジョブが確実に完了するようにするには、エージェントサーバと CA ARCserve Backup サーバとの間でタイムゾーンの同期をとる必要があります。
- Microsoft の既知の問題として、Windows Server 2008 システムに Windows SharePoint Services 3.0 および Microsoft Office SharePoint Server 2007 を展開する方法に応じて、SharePoint 2007 の動作が異なることがわかっています。
 - Windows SharePoint Services 3.0 または Microsoft Office SharePoint Server 2007 Service Pack 1 をアップグレードした場合、ファームが元々作成されたマシンで、Central Administration Service が実行されているマシン上に CA ARCserve Backup Agent for SharePoint Server をインストールする必要があります。バックアップ ジョブやリストア ジョブをサブミットする前に、このサービスがターゲットマシン上で実行されていることを確認する必要があります。実行されていない場合、ジョブは失敗する可能性があります。

- Windows SharePoint Services 3.0 または Microsoft Office SharePoint Server 2007 (Service Pack 1 を含む) をインストールした場合、ファームが元々作成されたマシンで、Central Administration Service が実行されているマシン上に CA ARCserve Backup Agent for SharePoint Server をインストールします。ただし、この場合、バックアップジョブやリストアジョブを実行するターゲットマシン上で Central Administration Service を実行している必要はありません。
- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server をこのリリースにアップグレードする際にサーバファームインストールを選択した場合は、ファームの作成時に使用したのと同じファーム管理者を使用する必要があります。別のファーム管理者を使用する場合は、Agent for Microsoft SharePoint Server の環境設定を起動して、環境設定をもう一度行う必要があります。この制限事項は、サーバファームインストール（「完全」および「Web フロントエンド」）にのみ影響します。SharePoint の単一サーバ（スタンドアロン）インストールには影響しません。

エージェントのインストール

Agent for Microsoft SharePoint Server は、CA ARCserve Backup のシステムコンポーネント、エージェント、およびオプションの標準的なインストール手順に従ってインストールします。

CA ARCserve Backup のインストール方法の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

詳細情報:

[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログ ボックス \(P. 19\)](#)
[SharePoint システムでのエージェントの設定 \(P. 25\)](#)

Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログ ボックス

Agent ダイアログ ボックスを開き、以下の手順を使用してオプションを設定できます。

[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定]ダイアログ ボックスを開く方法

1. Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [CA] - [ARCserve Backup] - [Backup Agent 管理] の順に選択します。

[ARCserve Backup Agent 管理] ダイアログ ボックスが開きます。

2. ドロップダウンリストから [CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server] を選択して、[環境設定] をクリックします。

[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定] ダイアログ ボックスが開きます。デフォルトでは、[DB レベル環境設定] タブが表示されます。

Agent for Microsoft SharePoint データベース レベル環境設定タブ

Agent for Microsoft SharePoint の [データベース レベル環境設定] タブでは、エージェントがインストールされている共有フォルダに Microsoft SharePoint データを格納するオプションを指定できます。



[データベース レベル環境設定] タブには次のオプションが含まれます。

デフォルトのバックアップ/リストア ダンプの場所

[デフォルトのバックアップ/リストア ダンプの場所] には、以下のオプションがあります。

注: リストア ジョブをサブミットする場合にも同じ場所が使用されます。

- **CA ARCserve Backup サーバ** - SharePoint データを、テープに保存する前に CA ARCserve サーバの共有フォルダにエクスポートします。
- **CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server (ローカルマシン)** - SharePoint データを、エージェントがインストールされているローカルコンピュータ上の共有フォルダにエクスポートします。エクスポートされたデータは、ネットワーク経由でテープに保存されます。

- その他 (NAS、ファイル) のサーバ名 - SharePoint データを、NAS デバイスまたはパブリックの共有フォルダにエクスポートします。このオプションを選択する場合は、サーバ名を指定する必要があります。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

バックアップ/リストア ダンプのパス

[バックアップ/リストア ダンプのパス] では、以下のとおり共有名と物理パスを指定します。

- 共有名 - バックアップ/リストア ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] を選択した場合は、データのバックアップ先の共有フォルダを指定します。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 名前には、特殊文字「\$」を最後に含むことはできません。

- 物理パス - バックアップ/リストア ダンプの場所として [CA ARCserve Backup サーバ] または [CA ARCserve Backup Agent for SharePoint Server] を選択した場合は、データのバックアップ先のパスを指定します。

バックアップ/リストア アカウント認証情報

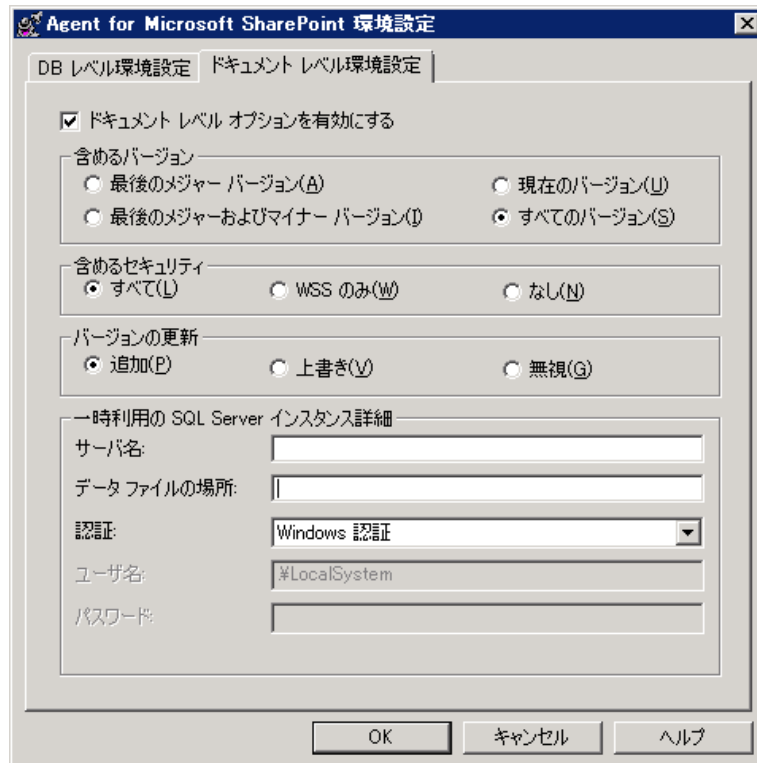
COM+ コンポーネントをインストールするには、[バックアップ/リストア アカウント認証情報] でユーザ名およびパスワードを指定します。

注: COM+ コンポーネントがインストールされていない場合、[認証情報をリセットする] オプションが有効になっています。これらのコンポーネントをインストールするには、ユーザの詳細を入力する必要があります。

- ユーザ名 - ファーム管理者のユーザ情報を定義します。
- パスワード - ファーム管理者のパスワードを定義します。

Agent for Microsoft SharePoint ドキュメントレベル環境設定タブ

さらに細かいレベルでリストアを実行するには、Agent for Microsoft SharePoint の [ドキュメント レベル環境設定] タブでオプションを設定する必要があります。



[ドキュメント レベル環境設定] タブには以下のオプションが含まれます。

ドキュメントレベル オプションを有効にする

ドキュメント レベルのリストア処理を有効にします。[ドキュメント レベル オプションを有効にする] オプションはデフォルトでオンになっています。

注: ドキュメント レベルのオブジェクトのリストアを実行するには、バックアップ オプションのダイアログ ボックスで [エージェントのデフォルト設定を使用する] オプションを選択し、さらにこの [ドキュメント レベル オプションを有効にする] オプションを選択する必要があります。

含めるバージョン

ドキュメントのバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャーバージョン - 最後のメジャーバージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナーバージョン - 最後のメジャーおよびマイナーバージョンのコンテンツを含めます。
- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。
- すべてのバージョン (デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティグループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべての (デフォルト) - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。

- WSS のみ - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。

- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加 (デフォルト) - デスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

一時利用の SQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名およびインスタンス名です。
- データ ファイルの場所 - この場所は、データベース バックアップ ダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベース ファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要があります。また、既存のパスを指定する必要があります。

注: SQL Server インスタンスには、データ ファイルの場所へのアクセス権がある必要があります。

- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
- Windows 認証 (デフォルト) - 接続に使用するユーザ名およびパスワードを入力できます。
- SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

注: 一時利用の SQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint のデータベース サーバのバージョンと同じである必要があります。

SharePoint システムでのエージェントの設定

エージェントをインストールしたら、そのエージェントによって以下の COM+ コンポーネントが 1 つ以上インストールされます（検出される SharePoint Server のバージョンに基づく）。

- SharePoint Server 2007: SPS012
- SharePoint Server 2010: SPS014
- SharePoint Server 2013: SPS015

これらのコンポーネントは、SharePoint Server と連携してデータをバックアップおよびリストアします。

注: エージェントを設定する際は、ページファイルの使用サイズが物理メモリを超えていないことを確認する必要があります。超えている場合、設定に失敗する場合があります。

次の手順に従ってください:

1. Windows の [スタート] メニューから、[すべてのプログラム]、[CA]、[ARCserve Backup] を選択し、[Backup Agent 管理] をクリックして、[ARCserve Backup Agent 管理] ダイアログ ボックスを開きます。
2. ドロップダウンリストから、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server を選択し、[環境設定] をクリックして [Agent for Microsoft SharePoint 環境設定] ダイアログ ボックスを開きます。デフォルトでは、[DB レベル環境設定] タブが表示されます。
3. [DB レベル環境設定] タブでデータベース レベルのオプションを選択し、エージェントのデータベース レベルのバックアップおよびリストア処理を設定します。データベース レベルのオプションの詳細については、「[Agent for Microsoft SharePoint データベース レベル環境設定 タブ \(P. 20\)](#)」を参照してください。

これでデータベース レベルの環境設定が完了しました。

4. [ドキュメント レベル環境設定] タブを選択して、ドキュメント レベルの環境設定オプションを表示します。

5. タブ内のオプションを選択して、ドキュメントレベルのリストアについてエージェントを設定します。ドキュメントレベルのエージェントオプションの詳細については、「[Agent for Microsoft SharePoint Server ドキュメントレベル環境設定タブ](#) (P. 22)」を参照してください。

これでドキュメントレベルの環境設定が完了しました。

6. [OK] をクリックして、ドキュメントレベルおよびデータベースレベルの環境設定を完了します。

第 3 章: SharePoint 2010/2013 システムのバックアップ

この章では、SharePoint 2010/2013 システムのデータのバックアップについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SharePoint 2010/2013 でのバックアップの概要 \(P. 27\)](#)

[2010/2013 でのデータベース レベルバックアップの前提条件 \(P. 27\)](#)

[SharePoint 2010/2013 でフルバックアップを実行する方法 \(P. 28\)](#)

[2010/2013 でのバックアップに関する考慮事項 \(P. 29\)](#)

[SharePoint Server 2010/2013 のバックアップ オプションダイアログ ボックス \(P. 30\)](#)

[エージェントバックアップ オプション \(P. 34\)](#)

[SharePoint Server 2010/2013 でのデータベース レベルのバックアップ \(P. 37\)](#)

SharePoint 2010/2013 でのバックアップの概要

データベース レベルのバックアップは、SharePoint Server 2010/2013 データベース ファイルを保護します。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベース レベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

2010/2013 でのデータベース レベル バックアップの前提条件

SharePoint Server 2010/2013 上でデータベース レベルのバックアップを実行する前に、以下の要件を満たしている必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスが、フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中である。
- Microsoft SQL Server が実行中である。

SharePoint 2010/2013 でフル バックアップを実行する方法

データベースのフルバックアップを実行する場合は、特定のファームの管理操作を確認する必要があります。これらの操作のいずれかを実行してから差分バックアップを実行する場合は、以前にフルバックアップしたデータベースを正常にリストアできないこともあります。この問題を回避するには、SharePoint 2010/2013 ファームまたは Windows SharePoint ファームのトポロジに対して以下のような変更を行った場合は必ずデータベースのフルバックアップをすぐに実行するようにします。

- 通常の Web アプリケーションまたは SharePoint サービス プロバイダ管理 Web アプリケーションへの新しい Web アプリケーションおよび新しいデータベースの追加。
- フルバックアップ ジョブの実行中のキャンセル。
- バックアップからのデータベースのリストア。

注: ファーム トポロジを更新した場合、Windows サービスの CA ARCserve SharePoint Agent Service を必ず再起動してください。

2010/2013 でのバックアップに関する考慮事項

バックアップを正常に実行するには、以下の点を考慮してください。

- コンポーネント A のフルバックアップを実行してから A の子コンポーネント B のフルバックアップを実行した場合、コンポーネント A の差分バックアップは失敗します。つまり、ファーム レベルのフルバックアップのすぐ後にファーム レベルの差分バックアップを実行することはできませんが、ファーム レベルのフルバックアップを行ってから、Web アプリケーションのフルバックアップを実行し、次にファームの差分バックアップを実行することはできません。この場合は、差分ジョブは失敗してエラーメッセージが表示されます。
- SharePoint Server 2010/2013 と同時に Microsoft SQL Server ツール、Central Administration Web サイトなどのツールを使用してバックアップを実行することはできません。たとえば、これらのツールを使用してフルバックアップを実行する場合は、差分バックアップ ジョブをリストアできないことがあります。
- Agent for Microsoft SharePoint Server と、Client Agent や Agent for SQL Server などのその他のエージェントを使用して SharePoint Server 2010/2013 を保護する場合は、SharePoint 2010/2013 のデータが 2 度以上バックアップされることがあります。この問題を回避するには、SharePoint 2010/2013 データベースおよび Client Agent および Agent for SQL Server バックアップ ジョブからのファイルを除外する必要があります。

SharePoint Server 2010/2013 は以下をサポートしません。

- [グローバル オプション] の下のエージェント側でのデータの暗号化および圧縮。
- 単一のインスタンスを使用したバックアップ ジョブのマルチプレキシングのマルチストリーミング。
- 異なる CA ARCserve Backup ドメインにある 2 つの異なるマシンのエージェントデータのバックアップ。

SharePoint Server 2010/2013 のバックアップ オプション ダイアログ ボックス

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server がデータベース レベルのバックアップを実行する場合に提供するオプションについて説明します。

データベース レベルのバックアップ オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション] をクリックします。 [Agent for Microsoft SharePoint のバックアップ オプション] ダイアログ ボックスが開きます。

Agent for Microsoft SharePointのバックアップ オプション

デフォルトのバックアップ ダンプ場所
Microsoft SharePoint Server が最初のバックアップ ダンプの保存先に使用するデフォルト ディスク ロケーションを選択します。

エージェントのデフォルト設定を使用する(U)
 CA ARCserve Backup サーバ(A)
 CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint(S)
 その他 (NAS、ファイル) のサーバ名(T):

バックアップ ダンプ パス

共有名(N)
物理パス(P)

環境設定のバックアップ

環境設定のみバックアップする(B)
 内容と環境設定をバックアップする(K)

バックアップ後にダンプ データをディスク上に保存する(B)
 ドキュメント レベル リストアを有効にする(E)

バックアップ方式

グローバルまたはローテーション設定を使用する(G)
 フル(F)
 差分(D)

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

[Agent for Microsoft SharePoint のバックアップ オプション] ダイアログボックスには、以下のオプションが含まれます。

デフォルトのバックアップ ダンプの場所

バックアップ ダンプの場所によって、CA ARCserve Backup で、データをテープに保存する前に一時的に保存する場所が指定されます。

以下のバックアップ ダンプの場所から選択できます。

- [エージェントのデフォルト設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択したバックアップ ダンプの場所を利用できます。
- [CA ARCserve Backup サーバ] -- SharePoint データを CA ARCserve Backup の共有フォルダにエクスポートします。
- [CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint Server] -- SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにエクスポートします。
- [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] -- SharePoint データを NAS サーバまたはファイルサーバ上の指定された共有フォルダにエクスポートします。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

バックアップ ダンプのパス

共有名と物理パスを指定する必要があります。

- [共有名] -- バックアップ ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] を選択した場合は、データのエクスポート先の共有名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- [物理パス] -- バックアップ ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのエクスポート先のパスを指定する必要があります。

環境設定のバックアップ

環境設定を選択する必要があります。

- [環境設定のみバックアップする] -- このオプションを選択すると、SharePoint Server の環境設定のみがバックアップされます。
- [内容と環境設定をバックアップする] -- このオプションを選択すると、SharePoint Server の内容および環境設定の両方がバックアップされます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

バックアップ後にダンプ データをディスク上に保存する

このオプションはデフォルトで有効になっています。バックアップを実行した後にディスク上のデータを保持できます。

以下の動作に注意してください。

- 保持されるデータは、通常前回のフルバックアップまたは最新のフルバックアップと、前回の差分バックアップのダンプデータになります。
- ダンプ場所が変更されない場合（保持）：フルバックアップを実行すると、エージェントは前のフルバックアップセッションおよび増分バックアップセッションを削除し、前回の最新フルバックアップセッションを保持します。差分バックアップを実行すると、エージェントは前の差分バックアップを削除し、最新の差分バックアップを保持します。
- ダンプ場所が変更された場合（保持されない）：エージェントは前のダンプ場所からデータを削除しません。
- このオプションを指定した場合、エージェントは、ダンプ キャッシュからデータをリストアします。パスワードを指定せずに、パスワード暗号化が含まれるデータをリストアできます。

ドキュメントレベルリストアを有効にする

ドキュメントレベルのリストア処理を実行できます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

バックアップ方式

バックアップジョブをサブミットする際、バックアップ方式を選択する必要があります。このバックアップ方式によって、**CA ARCserve Backup** でデータがどのようにバックアップされるかが決まります。以下のバックアップ方式から選択できます。

- [グローバルまたはローテーション設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。これを無効にしない場合は、[スケジュール] タブでバックアップ方式を選択してください。
- [フル] -- データベース全体をバックアップし、後続の増分バックアップまたは差分バックアップに備えてバックアップされたすべてのファイルにマークを付けます。

注: サービスパックへのアップグレード後およびリストアの実行後に初めてエージェントを実行するときは、必ずフルバックアップを実行してください。

- [差分バックアップ] -- 最後のバックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

注: [フル] または [差分] のバックアップ方式を選択する場合は、[スケジュール] タブの [バックアップ方式] オプションは適用されません。Microsoft SharePoint 2010/2013 は、[増分バックアップ] 方式をサポートしていません。[スケジュール] タブで [増分バックアップ] を選択する場合は、[差分バックアップ] と考えられます。

エージェント バックアップ オプション

バックアップ オプションのダイアログ ボックスでは、データベースの保護方式を以下から選択できます。

データベース エージェント

エージェントを使用して SharePoint データをバックアップします。

ハードウェア スナップショット

VSS ハードウェア スナップショットを使用して SharePoint データをバックアップします。このオプションを使用するには、CA ARCserve Backup Enterprise Module をインストールする必要があります。詳細については、「CA ARCserve Backup Microsoft Volume Shadow Copy Service ユーザ ガイド」を参照してください。

データベース全体

フルバックアップを使用して、SharePoint Server データベースをバックアップします。フルバックアップを使用して SharePoint Server データベース以外のデータ（検索インデックスなど）をすべてバックアップすることもできます。

注: データベース以外のデータでは、エージェントは、データベース全体のバックアップのみをサポートします。

データベース差分

データベース全体のバックアップが最後に行われてから変更されたデータベースのデータのバックアップを行います。たとえば、日曜日の夜にデータベース全体のバックアップを行った場合、月曜日の夜に差分バックアップを行い、月曜日に変更されたデータのみをバックアップします。

ファイルとファイル グループ

データベース内の選択したファイルをバックアップします。データベースのサイズやパフォーマンス要件によっては、データベースのフルバックアップを行うのが現実的でない場合があります。このような場合は、このオプションでファイルまたはファイル グループを選択し、バックアップを行います。

ファイルとファイル グループ - 差分

選択したファイルで、最後のファイル/ファイル グループ バックアップから変更されたデータベースのデータをバックアップします。ファイルの差分バックアップにより、トランザクション ログからリストアすべきトランザクションの数が減少し、回復時間が短縮されます。

トランザクション ログ

トランザクション ログをバックアップします。トランザクション ログのバックアップでは、以下のオプションが提供されます。

- [アクティブでないエントリをトランザクション ログから削除する] - トランザクション ログからアクティブでないエントリを切り捨てます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- [アクティブでないエントリをトランザクション ログから削除しない] - アクティブでないログ エントリはバックアップ後も保持されます。これらのエントリは、次回のトランザクション ログのバックアップに含まれます。
- [ログの末尾をバックアップし、データベースは復元中の状態にする] - ログの末尾がバックアップされ、データベースは読み取り専用およびスタンバイ モードのままになります。前回のバックアップ以降のアクティビティをバックアップして、リストアのためにデータベースをオフラインにするには、このオプションを使用します。

重要: SharePoint 環境設定データベースのバックアップでは、このオプションを選択しないでください。この機能はサポートされていません。ただし、その他の SharePoint データベースのバックアップ時はこのオプションを使用することができます。

以下のデータベースの整合性チェックもサポートされています。

バックアップ前

データベースのバックアップが実行される前に整合性をチェックします。

バックアップ後

データベースのバックアップが実行された後に整合性をチェックします。

DBCC が失敗した場合もバックアップを続行する

データベースの整合性チェックが失敗した場合でもバックアップを続行します。

データベースの物理的な整合性をチェックする

破損ページと共通ハードウェア エラー、ページおよびレコードのヘッダの物理構造の状態、ページのオブジェクトとインデックス ID 間の整合性を確認します。

インデックスをチェックしない

ユーザ定義のテーブル用インデックスをチェックせずに、DBCC を実行します。

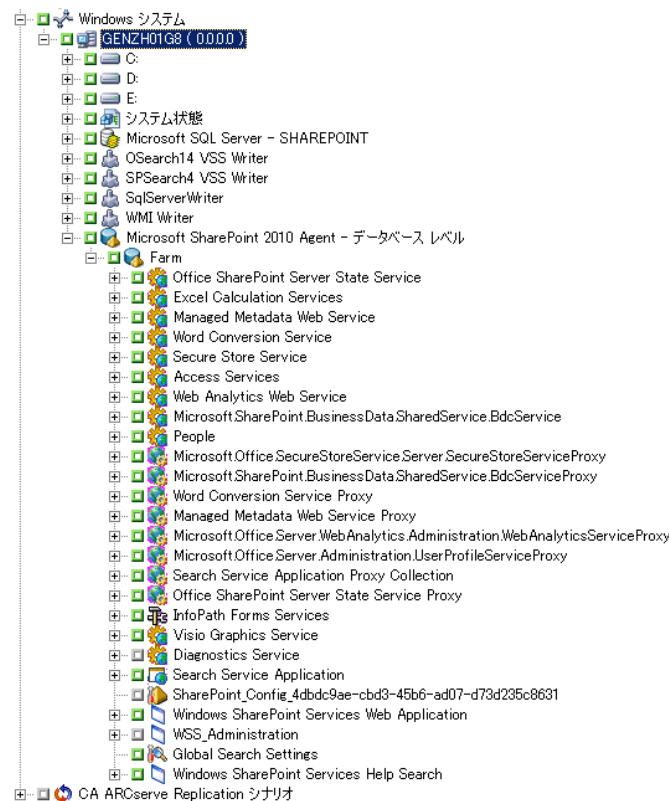
SharePoint Server 2010/2013 でのデータベース レベルのバックアップ

CA ARCserve Backup のバックアップ マネージャを使用して、SharePoint 2010/2013 システムでデータベース レベルのバックアップを実行します。

次の手順に従ってください:

1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート] メニューから [バックアップ] を選択します。

バックアップ マネージャ ウィンドウが開きます。



2. [バックアップ マネージャ] ウィンドウで、バックアップする [データベース レベル] オブジェクトを選択します (Microsoft SharePoint 2010/2013 - データベース レベル)。ファーム内の特定のコンポーネントのみをバックアップする場合は、ファームを展開してコンポーネントを選択します。

3. このジョブがある [ファーム] オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択して、使用するバックアップ方式を選択して [OK] をクリックします。

注: エージェントの最初の実行中にフル バックアップを常に実行して、SharePoint Server データベースの完全なセットを保存できるようにします。

4. [デスティネーション] タブをクリックし、バックアップ先を選択します。
5. [スケジュール] タブをクリックします。

カスタム スケジュールを使用する場合は、繰り返し方法を選択します。ローテーションスキーマを使用する場合は、[ローテーションスキーマ] オプションを選択し、スキーマを設定します。ジョブのスケジュールおよびローテーションスキーマの詳細については、オンラインヘルプまたは「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。

[セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが表示されます。

7. [セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが開いたら、各オブジェクトに対して正しいユーザ名とパスワードが入力されていることを確認します。ユーザ名やパスワードを入力または変更する場合は、[セキュリティ] ボタンをクリックして変更を行い、[OK] ボタンをクリックします。

8. [OK] をクリックします。

[ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。

9. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスから、[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。

10. ジョブの説明を入力します。

複数のソースのバックアップを選択した場合に、ジョブセッションの開始順序を設定するには、[ソース優先度] をクリックします。[一番上へ]、[上へ]、[下へ]、[一番下へ] の各ボタンを使用して、ジョブが処理される順序を変更します。優先順位付けが終わったら、[OK] をクリックします。

11. [OK] をクリックします。

バックアップジョブがサブミットされます。

第 4 章: SharePoint 2007 システムのバックアップ

この章では、SharePoint 2007 システムのデータのバックアップについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SharePoint 2007 でのバックアップの概要 \(P. 41\)](#)

[データベース レベルのバックアップ前提条件 \(P. 41\)](#)

[フルバックアップの実行方法 \(P. 42\)](#)

[バックアップの考慮事項 \(P. 43\)](#)

[データベース レベルエージェントバックアップオプションダイアログボックス \(P. 44\)](#)

[SharePoint Server 2007 でのデータベース レベルのバックアップ \(P. 47\)](#)

SharePoint 2007 でのバックアップの概要

データベース レベルのバックアップは SharePoint Server 2007 データベース ファイルを保護します。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベース レベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

データベース レベルのバックアップ前提条件

SharePoint Server 2007 上でデータベース レベルのバックアップを実行する前に、以下の要件を満たす必要があります。

- Windows SharePoint Services 管理サービスは、フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中です。
- Microsoft SQL Server が実行中であることを確認します。

フル バックアップの実行方法

データベースのフルバックアップを実行する場合は、特定のファームの管理操作を確認する必要があります。これらの操作のいずれかを実行してから差分バックアップを実行する場合は、以前にフルバックアップしたデータベースを正常にリストアできないこともあります。この問題を回避するためには、SharePoint 2007 ファームまたは Windows SharePoint 3.0 ファームのトポロジに対して以下のような変更を行った場合は必ずデータベースのフルバックアップをすぐに実行するようにします。

- 新しい Web アプリケーション、新しい SharePoint サービス プロバイダ、新しいデータベースの、通常 Web アプリケーションまたは SharePoint サービス プロバイダ管理 Web アプリケーションへの追加。
- SharePoint サービス プロバイダの名前変更。
- 管理 Web アプリケーションが SharePoint サービス プロバイダから切断されるように、SharePoint サービス プロバイダを削除。
- フルバックアップジョブの実行中のキャンセル。
- バックアップからのデータベースのリストア。

バックアップの考慮事項

バックアップを正常に実行するためには、以下の点を考慮してください。

- コンポーネント A のフルバックアップを実行してから A の子コンポーネント B のフルバックアップを実行した場合、コンポーネント A の差分バックアップは失敗します。つまり、ファーム レベルのフルバックアップのすぐ後にファーム レベルの差分バックアップを実行することはできませんが、ただし、ファーム レベルのフルバックアップを **SharePoint Provider Service** フルバックアップより前に実行してからファーム差分バックアップを実行することはできません。この場合は、差分ジョブは失敗してエラーメッセージが表示されます。
- **SharePoint Server 2007** と同時に **Microsoft SQL Server ツール**、**Central Administration Web** サイトなどのツールを使用してバックアップを実行することはできません。たとえば、これらのツールを使用してフルバックアップを実行する場合は、差分バックアップジョブをリストアできないことがあります。
- **Agent for SharePoint** や、**Client Agent** および **Agent for SQL** などのその他のエージェントを使用して **SharePoint Server 2007** を保護しようとする場合は、**SharePoint 2007** データは 2 度以上バックアップされることがあります。この問題を回避するには、**SharePoint 2007** データベースおよび **Client Agent** および **Agent for SQL Server** バックアップジョブからのファイルを除外する必要があります。

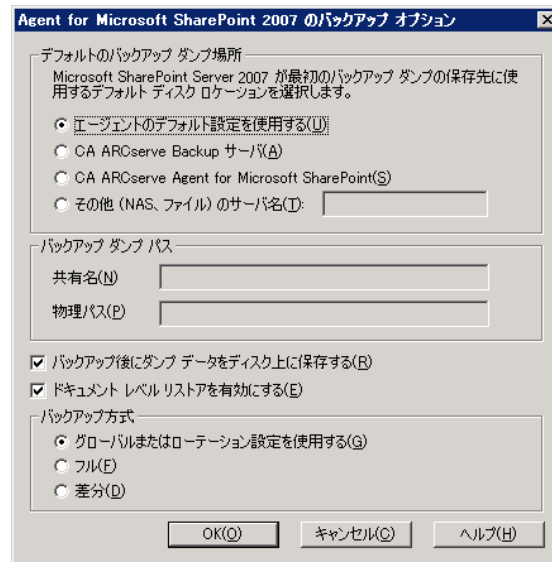
SharePoint Server 2007 は以下をサポートしません。

- [グローバル オプション] の下のエージェント側でのデータの暗号化および圧縮。
- バックアップジョブのマルチプレキシングおよびマルチストリーミング
- 異なる **CA ARCserve Backup** ドメインにある 2 つの異なるマシンのエージェントデータのバックアップ。

データベース レベル エージェント バックアップ オプション ダイアログ ボックス

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server がデータベース レベルのバックアップを実行する場合に提供するオプションについて説明します。

データベース レベルのバックアップ オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション] をクリックします。 [Agent for Microsoft SharePoint 2007 のバックアップ オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。



注: このリリースにアップグレードした後でバックアップ ジョブを実行する場合は、Agent for Microsoft SharePoint Server の [ドキュメント レベル 環境設定] ダイアログ ボックスで [ドキュメント レベル オプションを有効にする] を手動で選択する必要があります。また、ドキュメント レベル リストアを実行するには、SharePoint Server 2007 の [バックアップ オプション] ダイアログ ボックスで [ドキュメント レベル リストアを有効にする] オプションが有効になっていることを確認してください。

[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のバックアップ オプション] ダイアログ ボックスには、以下のフィールドやオプションがあります。

デフォルトのバックアップ ダンプの場所

CA ARCserve Backup は、バックアップ ダンプの場所に基づいて、テープに保存する前にデータを一時的に保存する場所を決定します。

以下のバックアップ ダンプの場所から選択できます。

- [エージェントのデフォルト設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択したバックアップ ダンプの場所を利用できます。
- [CA ARCserve Backup サーバ] -- SharePoint データを CA ARCserve Backup の共有フォルダにエクスポートします。
- [CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint Server] -- SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにエクスポートします。
- [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] -- SharePoint データを NAS サーバまたはファイルサーバ上の指定された共有フォルダにエクスポートします。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

バックアップ ダンプのパス

共有名と物理パスを指定する必要があります。

- [共有名] -- バックアップ ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] を選択した場合は、データのエクスポート先の共有名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- [物理パス] -- バックアップ ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのエクスポート先のパスを指定する必要があります。

バックアップ後にダンプ データをディスク上に保存する

このオプションはデフォルトで有効になっています。バックアップを実行した後にディスク上のデータを保持できます。

- 注: 保持されるデータは、通常前回のフルバックアップまたは最新のフルバックアップと、前回の差分バックアップのダンプデータになります。

ドキュメントレベル リストアを有効にする

ドキュメントレベルのリストア処理を実行できます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

バックアップ方式

バックアップ ジョブをサブミットする際、バックアップ方式を選択する必要があります。このバックアップ方式によって、CA ARCserve Backup でデータがどのようにバックアップされるかが決まります。以下のバックアップ方式から選択できます。

- [グローバルまたはローテーション設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。これを無効にしない場合は、[スケジュール] タブでバックアップ方式を選択してください。
- [フル] -- データベース全体をバックアップし、後続の増分バックアップまたは差分バックアップに備えてバックアップされたすべてのファイルにマークを付けます。

注: サービスパックへのアップグレード後およびリストアの実行後に初めてエージェントを実行するときは、必ずフルバックアップを実行してください。

- [差分バックアップ] -- 最後のバックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

注: [フル] または [差分] のバックアップ方式を選択する場合は、[スケジュール] タブの [バックアップ方式] オプションは適用されません。SharePoint 2007 は、[増分バックアップ] 方式をサポートしていません。[スケジュール] タブで [増分バックアップ] を選択する場合は、[差分バックアップ] と考えられます。

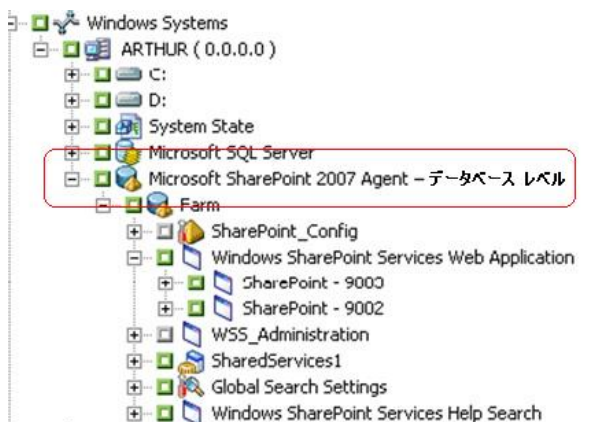
SharePoint Server 2007 でのデータベースレベルのバックアップ

CA ARCserve Backup のバックアップ マネージャを使用して、SharePoint 2007 システムでデータベース レベルのバックアップを実行します。

SharePoint 2007 システムでデータベースレベルのバックアップを実行する方法

1. CA ARCserve Backup ホーム画面の [クイック スタート] メニューから [バックアップ] を選択します。

バックアップ マネージャ ウィンドウが開きます。



2. [バックアップ マネージャ] ウィンドウで、バックアップする [データベース レベル] オブジェクトを選択します (Microsoft SharePoint 2007 - データベース レベル)。ファーム内の特定のコンポーネントのみをバックアップする場合は、ファームを展開してコンポーネントを選択します。
3. このジョブがある [ファーム] オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択して、使用するバックアップ方式を選択して [OK] をクリックします。

注: エージェントの最初の実行中にフル バックアップを常に実行して、SharePoint Server データベースの完全なセットを保存できるようにします。

4. [デスティネーション] タブをクリックし、バックアップ先を選択します。

5. [スケジュール] タブをクリックします。

カスタム スケジュールを使用する場合は、繰り返し方法を選択します。ローテーション スキーマを使用する場合は、[ローテーション スキーマ] オプションを選択し、スキーマを設定します。ジョブのスケジュールおよびローテーション スキーマの詳細については、オンラインヘルプまたは「*管理者ガイド*」を参照してください。

6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。

[セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが表示されます。

7. [セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが開いたら、各オブジェクトに対して正しいユーザ名とパスワードが入力されていることを確認します。ユーザ名やパスワードを入力または変更する場合は、[セキュリティ] ボタンをクリックして変更を行い、[OK] ボタンをクリックします。

8. [OK] をクリックします。

[ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。

9. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスから、[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。

10. ジョブの説明を入力します。

複数のソースのバックアップを選択した場合に、ジョブセッションの開始順序を設定するには、[ソース優先度] をクリックします。[一番上へ]、[上へ]、[下へ]、[一番下へ] の各ボタンを使用して、ジョブが処理される順序を変更します。優先順位付けが終わったら、[OK] をクリックします。

11. [OK] をクリックします。

バックアップジョブがサブミットされます。

第 5 章: SharePoint 2010/2013 システムのリストア

この章では、SharePoint 2010/2013 システムのデータのリストアについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SharePoint Server 2010/2013 のリストアの概要 \(P. 49\)](#)

[SharePoint Server 2010/2013 でのデータベース レベル リストア セット \(P. 50\)](#)

[SharePoint Server 2010/2013 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス \(P. 50\)](#)

[SharePoint Server 2010/2013 のデータベース レベル リストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 51\)](#)

[SharePoint Server 2010/2013 のデータベース レベル リストア 前提条件の SharePoint Server リストア 環境設定 \(P. 54\)](#)

[SharePoint Server 2010/2013 の SharePoint Server リストア 環境設定のデータベース レベル リストア の実行 \(P. 56\)](#)

[SharePoint 2010/2013 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 60\)](#)

[SharePoint 2010/2013 で元の場所へのドキュメント レベル リストア を実行 \(P. 65\)](#)

[SharePoint 2010/2013 で別の場所へのドキュメント レベル リストア を実行 \(P. 67\)](#)

SharePoint Server 2010/2013 のリストアの概要

以下のセクションでは、リストアを実行する前に満たす必要がある前提条件、リストア用に提供されている CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server の機能、SharePoint 2010/2013 システムでデータベース レベルおよびドキュメント レベルのリストアを実行する手順について説明します。

SharePoint Server 2010/2013 でのデータベース レベル リストア セット

SharePoint Server をリストアするには、すべてのセッションをリストアする必要があります。これらのセッションをすべて合わせると、データを完全にリストアできます。これらのセッションを「リストアセット」と呼び、以下のセッションが含まれます。

- フルバックアップ方式のみを使用した場合、リストアセットには、このフルセッションのみが含まれます。
- フルバックアップと差分バックアップの両方を使用した場合、リストアセットには、フルバックアップセッションと1つの差分バックアップセッションが含まれます。たとえば、以下のバックアップシナリオでは、リストアセットはフルと差分1、フルと差分2、フルと差分3、またはフルと差分4となります。

フル	差分1	差分2	差分3	差分4
----	-----	-----	-----	-----

- 差分バックアップからリストアする場合、差分バックアップセッションのみを選択する必要があります。CA ARCserve Backup では、前のフルバックアップを自動的に検索してから、フルバックアップおよび選択した差分バックアップのセッションの両方を検索します。

SharePoint Server 2010/2013 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス

[Agent for Microsoft SharePoint のリストア オプション] ダイアログ ボックス (2010/2013) には、データベース レベルのリストア オプションとドキュメント レベルのリストア オプションが含まれています。

詳細情報:

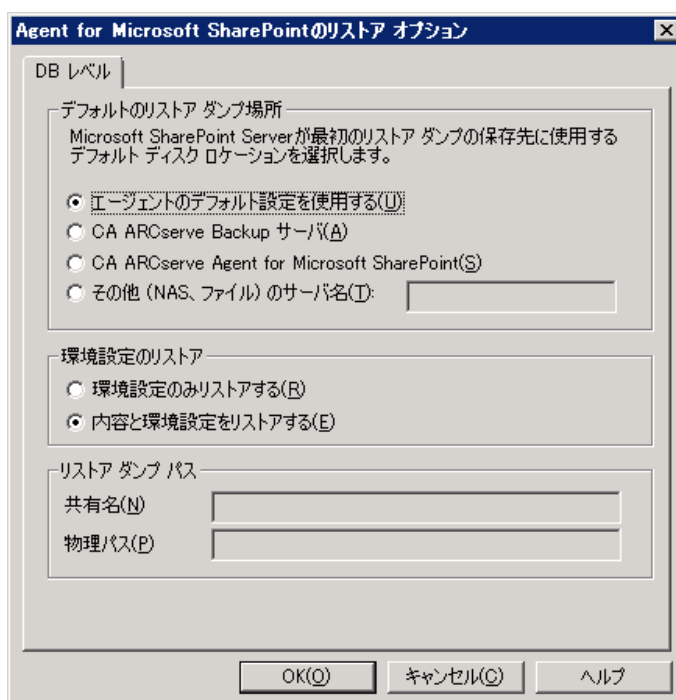
[SharePoint Server 2010/2013 のデータベース レベル リストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 51\)](#)

[SharePoint 2010/2013 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 60\)](#)

SharePoint Server 2010/2013 のデータベース レベル リストア オプション ダイアログ ボックス

リストア ジョブを作成する場合、ジョブをカスタマイズするリストア オプションを指定できます。

データベース レベルのリストア オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション] をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint のリストア オプション] ダイアログ ボックスが開きます。



[Agent for Microsoft SharePoint のリストア オプション] ダイアログ ボックスには以下のオプションがあります。

デフォルトのリストア ダンプの場所

データをリストアする前に、リストア ダンプの場所を選択する必要があります。リストアの場所から、CA ARCserve Backup は、SharePoint サーバに保存する前にデータを一時的に保存する場所がわかります。

注: リストア オプションを使用してリストアの場所を設定する場合、[Agent 設定] オプションを使用して設定した場所は適用されません。以下のリストア ダンプの場所から選択できます。

- エージェントのデフォルト設定を使用する - デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択した場所を利用できます。
- CA ARCserve Backup サーバ - SharePoint データを CA ARCserve Backup の共有フォルダにリストアします。
- CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint Server - SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにリストアします。
- その他 (NAS、ファイル) のサーバ名 - SharePoint データを NAS サーバまたはファイルサーバ上の指定された共有フォルダにリストアします。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

リストア環境設定

- 環境設定のみリストアする - データベース レベルのリストアの実行中に環境設定をリストアします。
- 内容と環境設定をリストアする - データベース レベルのリストアの実行中に内容と環境設定をリストアします。環境設定オプションの詳細については、「[SharePoint Server 2010/2013 のリストア環境設定 \(P. 53\)](#)」を参照してください。

リストア ダンプのパス

- 共有名 - デフォルトのリストア ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] を選択した場合、データのリストア先のサーバ名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- 物理パス - リストア ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのリストア先のパスを指定する必要があります。

これらのオプションと設定方法の詳細については、「[SharePoint システムでのエージェントの設定](#)」(P. 25)を参照してください。

SharePoint Server 2010/2013 のリストア環境設定

リストア環境設定を指定するには、リストア マネージャの [サブミット] ボタンを使用します。

[SharePoint Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

SharePoint Agent リストア環境設定

リストア環境設定を選択してください。

リストアの種類

新しい環境設定

同じ環境設定

名前と場所

Farm#People#People

新しい名前: People

Farm#People#People#People_SyncDB_66f00df64df04929a1b7054123d800ca

新しいデータベース サーバ名: GENZH01G8#SharePoint

新しいディレクトリ名: C:#Program Files#Microsoft Office Se

新しいデータベース名: People_SyncDB_66f00df64df04929a1b

Farm#People#People#People_SocialDB_0c9bee9fb6b14150841eaaf7a8d81a0f

新しいデータベース サーバ名: GENZH01G8#SharePoint

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

リストアの種類

リストア後に同じリストア名と場所にする 것도でき、別のリストア名と場所にする 것도できます。

ログイン名とパスワード

ファーム、Web アプリケーション、および共有サービス プロバイダにログインできるように設定できます。この機密情報は、データをリストアするのに常に必要です。

名前と場所

バックアップ ジョブがリストアされた後に新しい名前または場所になるコンポーネントが 1 つ以上あるように、名前または場所、またはその両方を設定します。

異なるコンポーネントの環境設定項目は、名前と場所が異なります。以下の表には、コンポーネントと環境設定項目をリストします。

コンポーネントタイプ	環境設定項目	コメント
データベース	新しいデータベースサーバ名	データベースをリストアする SQL データベースサーバです。これはエイリアス名の場合もあります。
	新しいディレクトリ名	SQL データベース ファイルを保存する新しい物理パスです。
	新しいデータベース名	リストア後の新しいデータベース名です。
UserProfileApplication	新しいサーバ名	リストア後の UserProfileApplication の新しい My Site アドレスです。
共有検索インデックス	新しいサーバ名	Office 検索インデックス サービスが実行されているコンピュータ名です。
	新しいディレクトリ名	インデックス ファイルが保存されている新しい物理パスです。
Web アプリケーション	新しい Web アプリケーションの URL	Web アプリケーションの Web サイトの URL
	新しい Web アプリケーション名	IIS に表示される新しい Web アプリケーションの名前です。

SharePoint Server 2010/2013 のデータベースレベル リストア前提条件の SharePoint Server リストア環境設定

SharePoint Server 2010/2013 上でデータベース レベルのリストアを実行する前に、以下の要件を満たしている必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスおよび Windows SharePoint Services Timer サービスがすべてのフロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中であることを確認します。
- スタンドアロンのインストールではタイマ サービスを再起動します。

- 検索サービスおよびインデックスを新しい場所にリストアする場合は、リストアの開始前に検索サービスが実行中であることを確認します。
- Web アプリケーションのすべてのコンテンツ データベースに一意の名前が付いていることを確認します。2つの Web アプリケーションが同じ名前のデータベースを使用している場合、リストアすると、2番目のデータベースのデータが最初のデータベースのデータで上書きされます。
- 同時に複数のリストアを実行しないようにしてください。
- ファーム内のすべてのサーバが同じタイムゾーンおよび夏時間を使用していることを確認してください。
- スタンドアロンインストールでは、リストア ジョブを実行する前に、以下のアカウントをローカルの Administrators グループに追加してください。リストア ジョブが完了したら、これらのアカウントを削除してください。
 - NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE
 - NT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE

ローカルの Administrators グループにアカウントを追加する方法

1. [コントロールパネル] - [管理ツール] - [コンピュータの管理] - [システム ツール] - [ローカル ユーザーとグループ] - [グループ] - [Administrators] を選択します。
2. [追加] をクリックします。
3. 「NETWORK SERVICE」および「LOCAL SERVICE」と入力します。
4. [OK] をクリックします。

SharePoint Server 2010/2013 の SharePoint Server リストア環境設定のデータベース レベル リストアの実行

CA ARCserve Backup でバックアップ マネージャを使用し、データベース レベルのデータ リストアを実行します。

重要: コンテンツ データベースの名前はすべて一意にしてください。コンテンツ データベースをリストアする前に、そのデータベースの名前が他の **Web** アプリケーションで使用されていないことを確認してください。 [セッション単位] 方式を使用してコンテンツ データベースをリストアする際、同じデータベース名が **2** つの異なるアプリケーションで使用されていると、データベースのリストア ジョブは「成功」と表示されますが、**2** 番目のアプリケーションでデータベースの内容を上書きしてしまいます。

次の手順に従ってください:

1. CA ARCserve Backup ホームページで、 [クイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。
 [リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、 [ソース] タブのドロップダウンリストで [ツリー単位] を選択します。

注: データベース レベルのリストアでは [ツリー単位] と [セッション単位] の両方がサポートされています。

Microsoft SharePoint 2010/2013 Agent の下 - データベース レベルのノードに複数のファーム オブジェクトがあることがあります。

シングルバックアップ ジョブのファームの下で複数のコンポーネントを選択する場合、複数のファーム オブジェクトが表示されます。各ノードは、バックアップする選択されたコンポーネントと関連付けられます。たとえば、**Web** アプリケーションと共有サービスを選択する場合は、**2** つのファーム オブジェクトが生成されます。**1** つのファーム オブジェクトには **Web** アプリケーションがあり、もう **1** つのファーム オブジェクトには共有サービスがあります。

同じファームまたはコンポーネントを複数回バックアップする場合は、このコンポーネントの最新バックアップを表示するファーム オブジェクトのみが表示されます。

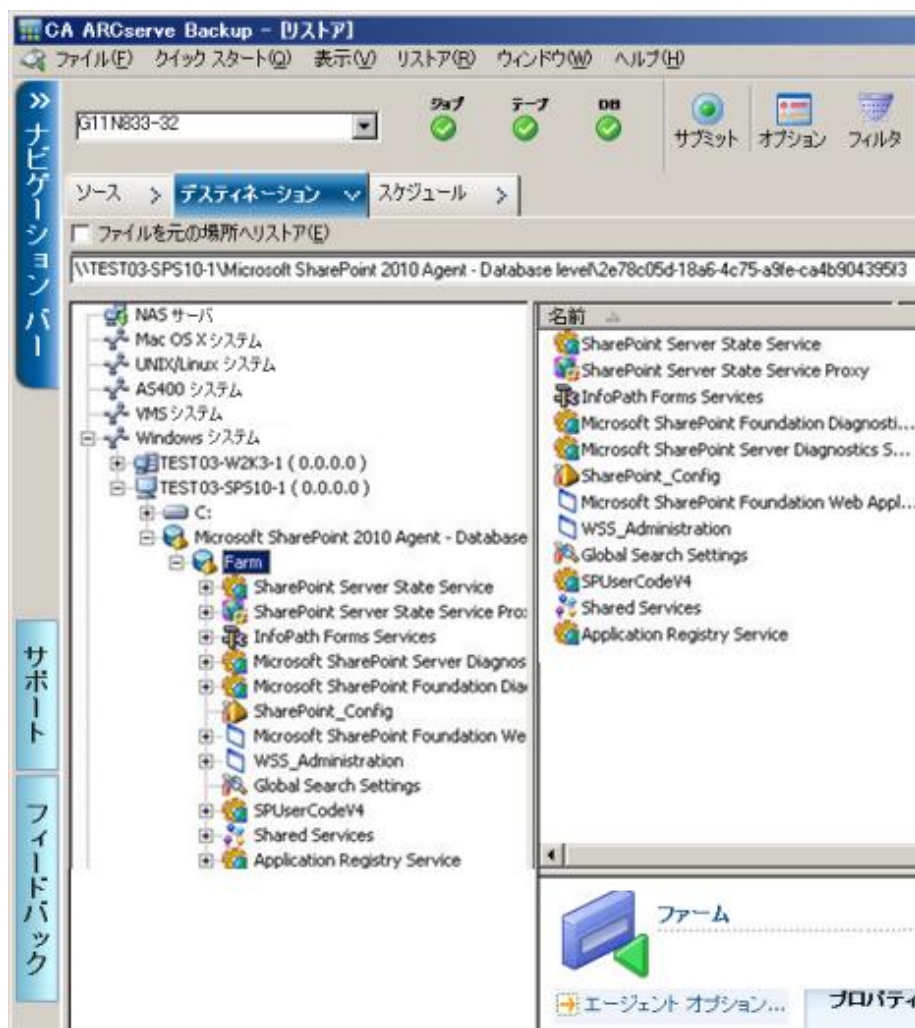
3. ディレクトリ ツリーから、[Windows システム] オブジェクトを展開して、バックアップしたデータベースを含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。
4. リストアするバックアップが最新のバックアップでない場合は、リストアする復旧ポイントセッションを選択します。
5. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択してリストア オプションを選択します。リストア オプションの詳細については、「[SharePoint Server 2010/2013 のデータベース レベル リストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 51\)](#)」を参照してください。
6. [デスティネーション] タブをクリックします。データベース オブジェクトは元の場所 (デフォルト) 、または別の場所にリストアすることができます。

注: Windows SharePoint 2010/2013 を使用しており、すべてのファームを別のファームにリストアする場合、Microsoft SharePoint RC ビルドをバージョン 4747.1000 以降にアップグレードする必要があります。

Microsoft の既知の問題によると、Web Analytics Service Application Reporting Database の新しいロケーションへのリストアは動作しません。リストアを実行する前に、そのデータベースの元の場所のディレクトリがデスティネーション ファームに存在することを確認してください。

7. 別の場所にリストアする場合、[ファイルを元の場所にリストア] チェック ボックスをオフにして、[Windows システム] オブジェクトを展開し、リストア先のサーバを展開し、[Microsoft SharePoint 2010/2013 - データベース レベル] オブジェクトを選択します。

注: 別の場所にリストアする場合は、リストア先としてファーム オブジェクトを選択する必要があります。



8. ツールバーの [サブミット] をクリックします。[リストア環境設定] ダイアログ ボックスに必要な情報を入力します。

別の場所にリストアする場合、[セキュリティ] ダイアログ ボックスが表示された後で、リストア先のサーバのユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

9. [セッションユーザ名およびパスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。

注: ユーザ名は以下のフォーマットで入力する必要があります。

<ドメイン>*<ユーザ名>

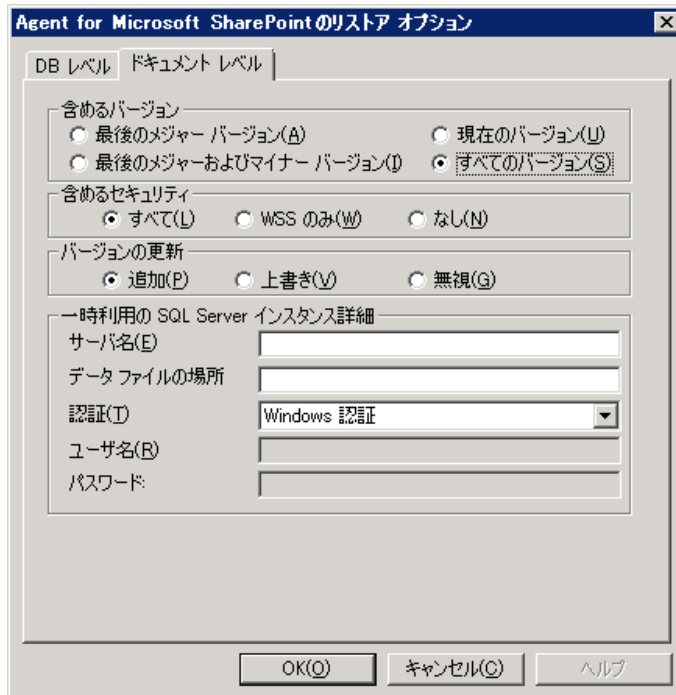
10. [OK] をクリックします。
11. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
12. ジョブの説明を入力し、[OK] をクリックします。

重要: リストアの実行後、Internet Information Services (IIS) を再起動する必要があります。

SharePoint 2010/2013 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス

ドキュメントレベルのリストア ジョブを作成する場合、[ドキュメントレベル] タブを使用してリストア オプションを指定し、ジョブをカスタマイズすることができます。

ソースを選択し、[エージェント オプション] をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint のリストア オプション] ダイアログ ボックスが開きます。[ドキュメントレベル] タブを選択し、リストア処理を実行するためのオプションを設定します。



SharePoint のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックスには、以下のオプションがあります。

含めるバージョン

ドキュメントのバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャーバージョン - 最後のメジャーバージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナーバージョン - 最後のメジャーおよびマイナーバージョンのコンテンツを含めます。
- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。
- すべてのバージョン (デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティ グループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべて (デフォルト) - ユーザ メンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。

- WSS のみ - ユーザ メンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。

- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加 (デフォルト) - デスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

一時利用の SQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名およびインスタンス名です。
- データ ファイルの場所 - この場所は、データベース バックアップ ダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベース ファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要があります。また、既存のパスを指定する必要があります。

注: SQL Server インスタンスには、データ ファイルの場所へのアクセス権がある必要があります。

- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
- Windows 認証 (デフォルト) - 接続に使用するユーザ名およびパスワードを入力できます。
- SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

注: 一時利用の SQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint のデータベース サーバのバージョンと同じである必要があります。

SharePoint 2010/2013 Agent リストア環境設定ダイアログ ボックス

別の場所へのドキュメント レベル リストアを実行する際には、
[SharePoint Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスを設定する
必要があります。

リストア マネージャの [デスティネーション] タブを選択した後、ツ
ールバーの [サブミット] をクリックします。 [SharePoint Agent リストア
環境設定] ダイアログ ボックスが開きます。

SharePoint Agent リストア環境設定

以下のパラメータは、サイト コレクションのリストア時に必要である場合、空のサイト コレクションを作成するために使用されます。

サイト コレクション

Farm#Windows SharePoint Services Web Application#SharePoint - 80#SharePoint - 14704#sites/

デスティネーション サイトのフル URL:

所有者のログイン:

所有者の電子メール:

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

以下のパラメータの情報を入力する必要があります。

デスティネーション サイトのフル URL

サイト コレクションのリストア先のデスティネーションを指定しま
す。

所有者ログイン

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。 デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザアカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

所有者電子メール

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。

デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザアカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

ドキュメント レベル リストアのデスティネーション フォルダ

コンテンツ データベース ノード下のコンポーネントはすべてドキュメント レベル コンポーネントであると考えられます。これらは展開可能です。 リストア デスティネーションにはまた、「別の場所へのリストア」機能を使用する際に、ドキュメント レベル コンポーネントが示されます。ソース タイプに基づいて、適切なデスティネーションを選択できます。 詳細については以下の表を参照してください。

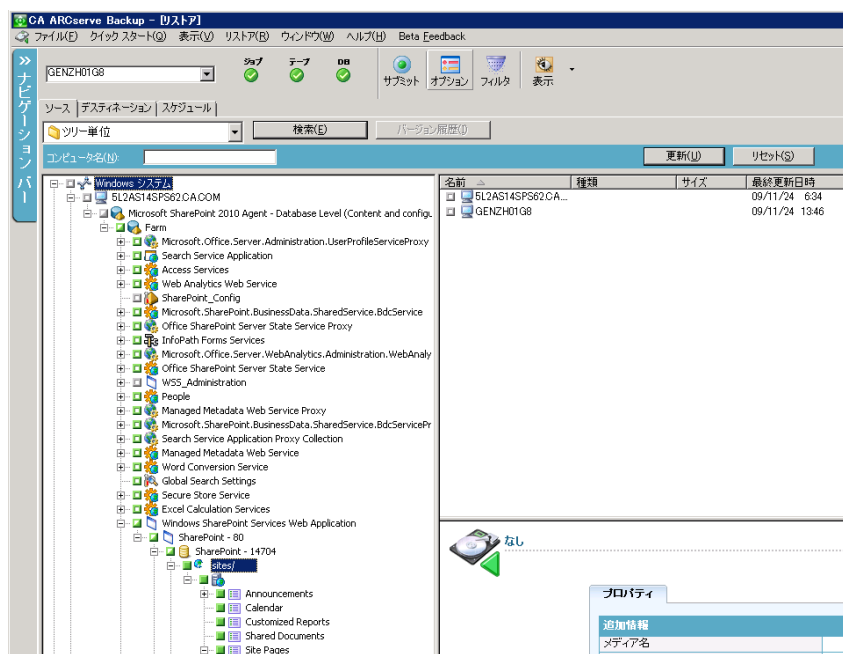
ソース	デスティネーション
サイト コレクション	Web アプリケーション
サイト	サイト コレクション
リスト	サイト
フォルダ	リスト、フォルダ
ファイル	リスト、フォルダ
ファイルのバージョン	リスト、フォルダ

SharePoint 2010/2013 で元の場所へのドキュメントレベル リストアを実行

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用し、ドキュメントレベルのデータ リストアを実行します。

サイト コレクションを元の場所へリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。
[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウンリストで [ツリー単位] を選択します。
3. ディレクトリ ツリーから、**Windows** システム オブジェクトを展開し、データベース ノードの下のサイト コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。



4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション] タブをクリックします。元の場所 (デフォルトの場所) へのデータベース オブジェクトのリストアを選択できます。

6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。
7. [セッションユーザ名およびパスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。
8. [OK] をクリックします。
9. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
10. ジョブの説明を入力し、[OK] をクリックします。
サイト コレクションがリストアされます。

SharePoint 2010/2013 で別の場所へのドキュメントレベル リストアを実行

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用し、ドキュメント レベルのデータ リストアを実行します。

注: SharePoint Server 2010/2013 のインストール後に [ファームの構成] を実行した場合は、ファームを別の場所にリストアするときに必ず以下の手順に従ってください。

- Windows の [スタート] メニューにある [SharePoint 製品構成ウィザード] を使用して、ファームを切断します。
- 以下のサービスが停止され、それらのステータスが無効になっていることを確認します。
 - SharePoint 2010 Tracing
 - SharePoint 2010 User Code Host
 - SharePoint Foundation Search V4
 - SharePoint Server Search 14
 - SharePoint 2010 VSS Writer
- Microsoft SQL Server Management Studio を使用して、ファーム データベース サーバからデータベースをすべて削除します。

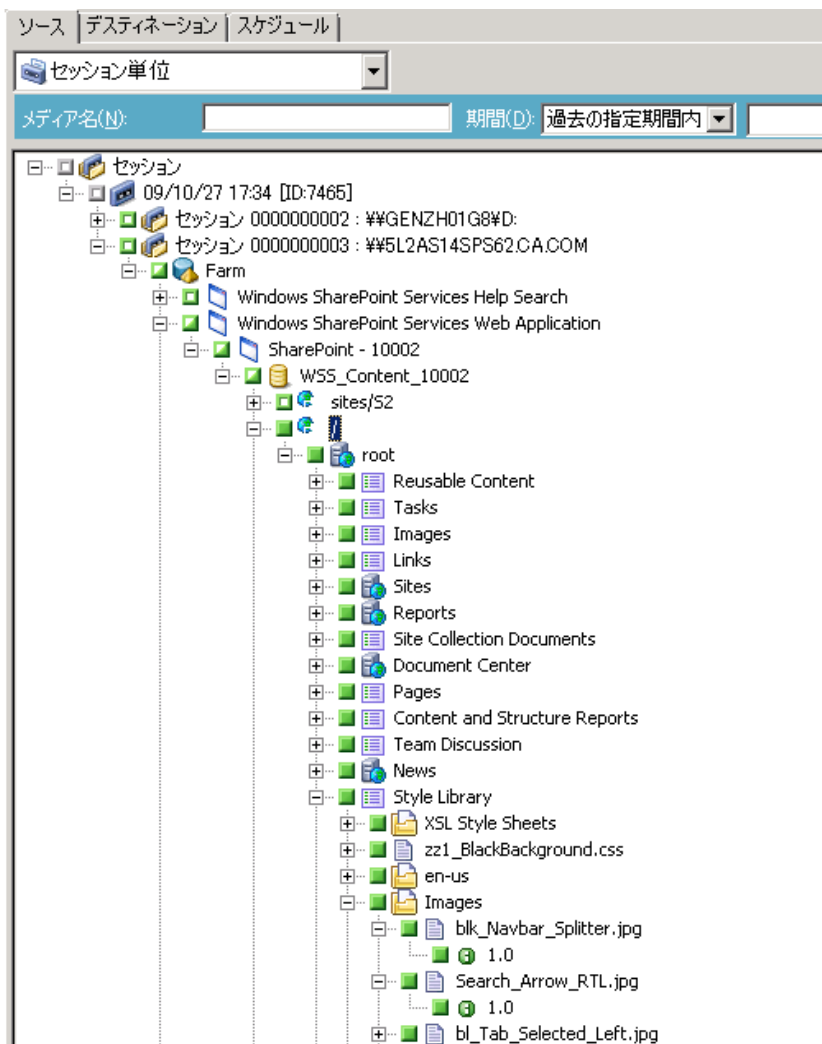
これで、リストア プロセスを実行するための手順に進むことができます。

サイト コレクションを別の場所にリストアする方法

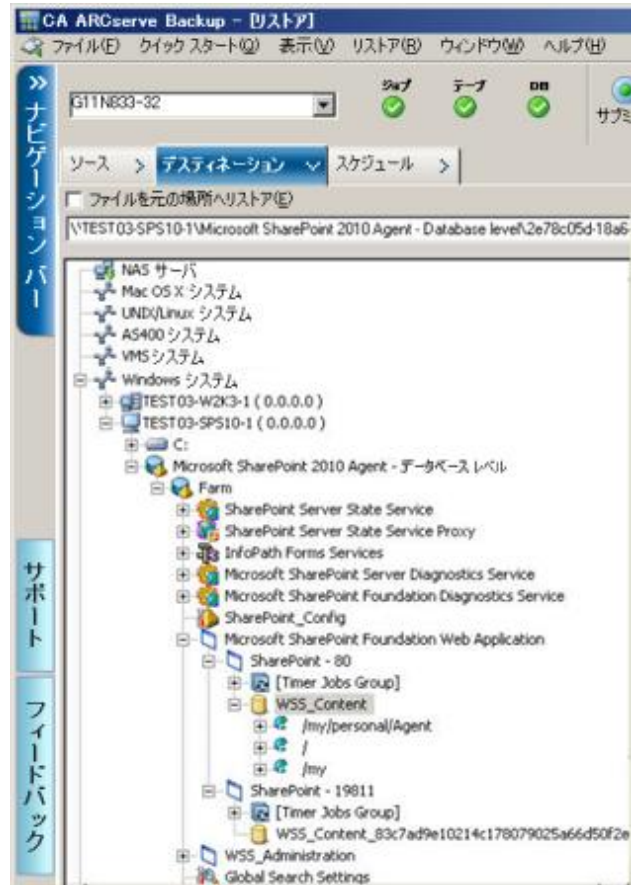
1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。

[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウン リストで [ツリー単位] を選択します。

3. ディレクトリ ツリーから、Windows システム オブジェクトを展開し、データベース ノードの下のサイト コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。



4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション] タブをクリックします。データベース オブジェクトを別の場所にリストアすることができます。別の場所の詳細については、[「ドキュメントレベル リストアのデスティネーション フォルダ \(P. 64\)」](#) を参照してください。



6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。

[SharePoint Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスが開きます。

SharePoint Agent リストア環境設定

以下のパラメータは、サイト コレクションのリストア時に必要である場合、空のサイト コレクションを作成するために使用されます。

サイト コレクション

Farm#Windows SharePoint Services Web Application#SharePoint - 80#SharePoint - 14704#sites/

デスティネーション サイトのフル URL:

所有者のログイン:

所有者の電子メール:

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

7. [SharePoint Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスに、ドキュメント レベルのリストアに必要な情報を入力します。
8. [セッション ユーザ名およびパスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。
9. [OK] をクリックします。
10. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
11. ジョブの説明を入力し、[OK] をクリックします。
サイト コレクションがリストアされます。

第 6 章: SharePoint 2007 システムのリストア

この章では、SharePoint 2007 システムのデータのリストアについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[リストアの概要 \(P. 73\)](#)

[データベース レベルのリストアセット \(P. 74\)](#)

[SharePoint Server 2007 のリストア ローカルオプションダイアログボックス \(P. 74\)](#)

[SharePoint 2007 のデータベース レベルリストア オプションダイアログボックス \(P. 75\)](#)

[データベース レベルのリストアの前提条件 \(P. 78\)](#)

[データベース レベルのデータ リストアの実行 \(P. 80\)](#)

[SharePoint 2007 のドキュメント レベルのリストア オプションダイアログボックス \(P. 84\)](#)

[SharePoint 2007 の元の場所へのドキュメント レベルリストアの実行 \(P. 89\)](#)

[SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメント レベルリストアの実行 \(P. 91\)](#)

[Agent for Microsoft SharePoint Server の制限 \(P. 93\)](#)

リストアの概要

以下のセクションでは、リストアを行う前に満たす必要のある前提条件、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server の機能、およびデータベース レベルとドキュメント レベルのリストアを行う手順について説明します。

データベースレベルのリストア セット

SharePoint Server をリストアするには、すべてのセッションをリストアする必要があります。これらのセッションをすべて合わせると、データを完全にリストアできます。これらのセッションを「リストアセット」と呼び、以下のセッションが含まれます。

- フルバックアップ方式のみを使用した場合、リストアセットには、このフルセッションのみが含まれます。
- フルバックアップと差分バックアップの両方を使用した場合、リストアセットには、フルバックアップセッションと1つの差分バックアップセッションが含まれます。たとえば、以下のバックアップシナリオでは、リストアセットはフルと差分1、フルと差分2、フルと差分3、またはフルと差分4となります。

フル	差分1	差分2	差分3	差分4
----	-----	-----	-----	-----

- 差分バックアップからリストアする場合、差分バックアップセッションのみを選択する必要があります。CA ARCserve Backup では、前のフルバックアップを自動的に検索してから、フルバックアップおよび選択した差分バックアップのセッションの両方を検索します。

SharePoint Server 2007 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス

Agent for Microsoft SharePoint 2007 ダイアログ ボックスのリストア オプションは、データベースレベルのリストア オプションとドキュメントレベルのリストア オプションから構成されています。

詳細情報:

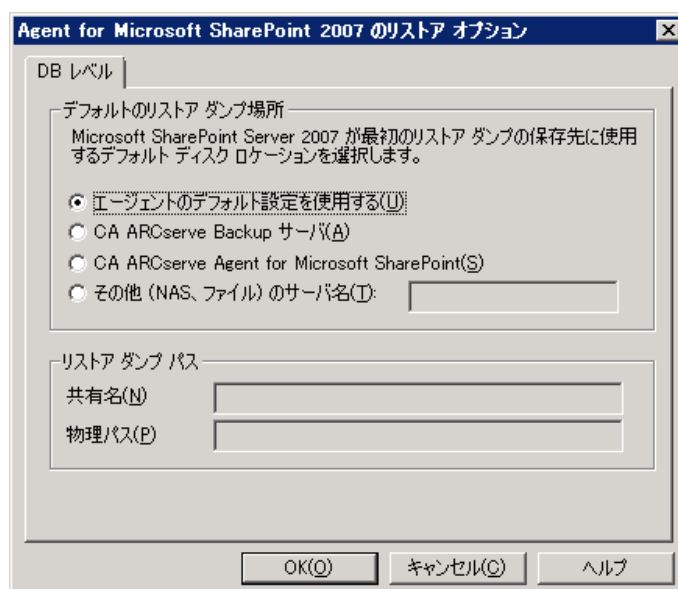
[SharePoint 2007 のデータベースレベル リストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 75\)](#)

[SharePoint 2007 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 84\)](#)

SharePoint 2007 のデータベース レベル リストア オプション ダイアログ ボックス

リストア ジョブを作成する場合、ジョブをカスタマイズするリストア オプションを指定できます。

データベース レベルのリストア オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション] をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストア オプション] ダイアログ ボックスが開きます。



[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストア オプション] タブには、以下のオプションがあります。

デフォルトのリストア ダンプの場所

リストアの場所から、CA ARCserve Backup は、SharePoint サーバに保存する前にデータを一時的に保存する場所がわかります。

注: リストア オプションを使用してリストアの場所を設定する場合、[Agent 設定] オプションを使用して設定した場所は適用されません。以下のリストア ダンプの場所から選択できます。

- エージェントのデフォルト設定を使用する - デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択した場所を利用できます。

- CA ARCserve Backup サーバ - SharePoint データを CA ARCserve Backup の共有フォルダにリストアします。
- CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint - SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにリストアします。
- その他 (NAS、ファイル) のサーバ名 - SharePoint データを NAS サーバまたはファイル サーバ上の指定された共有フォルダにリストアします。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

リストア ダンプのパス

- 共有名 - デフォルトのリストア ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] を選択した場合、データのリストア先のサーバ名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

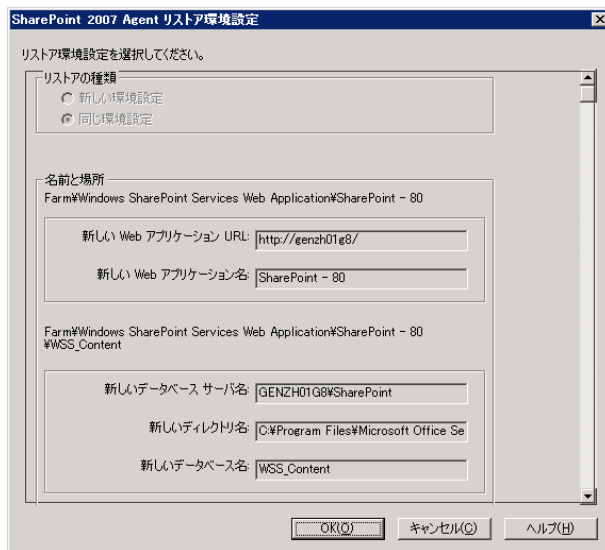
注: 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- 物理パス - リストア ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのリストア先のパスを指定する必要があります。

これらのオプションと設定方法の詳細については、[「SharePoint システムでのエージェントの設定」](#) (P. 25)を参照してください。

リストア環境設定

リストア環境設定を指定するには、リストア マネージャの [サブミット] ボタンを使用します。



このダイアログ ボックスには、以下の情報が含まれます。

リストアの種類

リストア後に同じリストア名と場所にすることもでき、別のリストア名と場所にすることもできます。

ログイン名とパスワード

ファーム、Web アプリケーション、および共有サービス プロバイダにログインできるように設定できます。この機密情報は、データをリストアするのに常に必要です。

名前と場所

バックアップ ジョブがリストアされた後に新しい名前または場所になるコンポーネントが 1 つ以上あるように、名前または場所、またはその両方を設定します。

異なるコンポーネントの環境設定項目は、名前と場所が異なります。以下の表には、コンポーネントと環境設定項目をリストします。

コンポーネント タイプ	環境設定項目	コメント
-------------	--------	------

データベースレベルのリストアの前提条件

コンポーネントタイプ	環境設定項目	コメント
データベース	<ul style="list-style-type: none">■ 新しいデータベース サーバ名■ 新しいディレクトリ名■ 新しいデータベース名	<ul style="list-style-type: none">■ データベースをリストアする SQL データベース サーバです。これはエイリアス名の場合もあります。■ SQL データベース ファイルを保存する新しい物理パスです。■ リストア後の新しいデータベース名です。
UserProfileApplication	新しいサーバ名	リストア後の UserProfileApplication の新しい My Site アドレスです。
共有検索インデックス	<ul style="list-style-type: none">■ 新しいサーバ名■ 新しいディレクトリ名	<ul style="list-style-type: none">■ Office 検索インデックス サービスが実行されているコンピュータ名です。■ インデックス ファイルが保存されている新しい物理パスです。
Web アプリケーション	<ul style="list-style-type: none">■ 新しい Web アプリケーションの URL■ 新しい Web アプリケーション名	<ul style="list-style-type: none">■ Web アプリケーションの Web サイトの URL■ IIS に表示される新しい Web アプリケーションの名前です。

データベースレベルのリストアの前提条件

SharePoint Server 2007 でデータベース レベルのリストアを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスおよび Windows SharePoint Services Timer サービスがすべてのフロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中であることを確認します。
- スタンドアロンのインストールではタイマ サービスを再起動します。

- 検索サービスおよびインデックスを新しい場所にリストアする場合は、リストアの開始前に検索サービスが実行中であることを確認します。
- Web アプリケーションのすべてのコンテンツ データベースに一意の名前が付いていることを確認します。2つの Web アプリケーションが同じ名前のデータベースを使用している場合、リストアすると、2番目のデータベースのデータが最初のデータベースのデータで上書きされます。
- 同時に複数のリストアを実行しないようにしてください。
- ファーム内のすべてのサーバが同じタイムゾーンおよび夏時間を使用していることを確認してください。
- スタンドアロンインストールでは、リストアジョブを実行する前に、以下のアカウントをローカルの管理者グループに追加してください。リストアジョブが完了したら、これらのアカウントを削除してください。
 - NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE
 - NT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE

ローカルの Administrators グループにアカウントを追加する方法

1. [コントロールパネル] - [管理ツール] - [コンピュータの管理] - [システム ツール] - [ローカルユーザーとグループ] - [グループ] - [Administrators] を選択します。
2. [追加] をクリックします。
3. 「NETWORK SERVICE」および「LOCAL SERVICE」と入力します。
4. [OK] をクリックします。

データベースレベルのデータリストアの実行

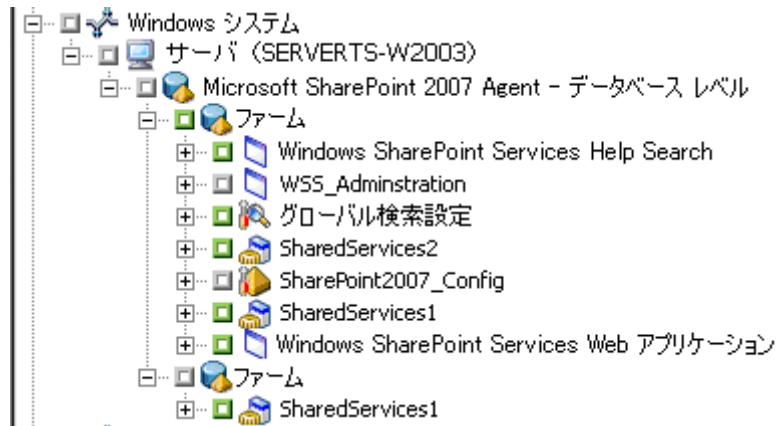
CA ARCserve Backup でバックアップ マネージャを使用し、データベースレベルのデータ リストアを実行します。

重要: コンテンツ データベースの名前はすべて一意にしてください。コンテンツ データベースをリストアする前に、そのデータベースの名前が他の **Web** アプリケーションで使用されていないことを確認してください。 [セッション単位] 方式を使用してコンテンツ データベースをリストアする際、同じデータベース名が 2 つの異なるアプリケーションで使用されていると、データベースのリストア ジョブは「成功」と表示されますが、2 番目のアプリケーションでデータベースの内容を上書きしてしまいます。

SharePoint Server 2007 データベースをリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホーム画面の [クイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。
[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウンリストで [ツリー単位] を選択します。

注: データベース レベルのリストアでは [ツリー単位] と [セッション単位] の両方がサポートされています。



Microsoft SharePoint 2007 Agent の下 - データベース レベルのノードに複数のファーム オブジェクトがあることがあります。

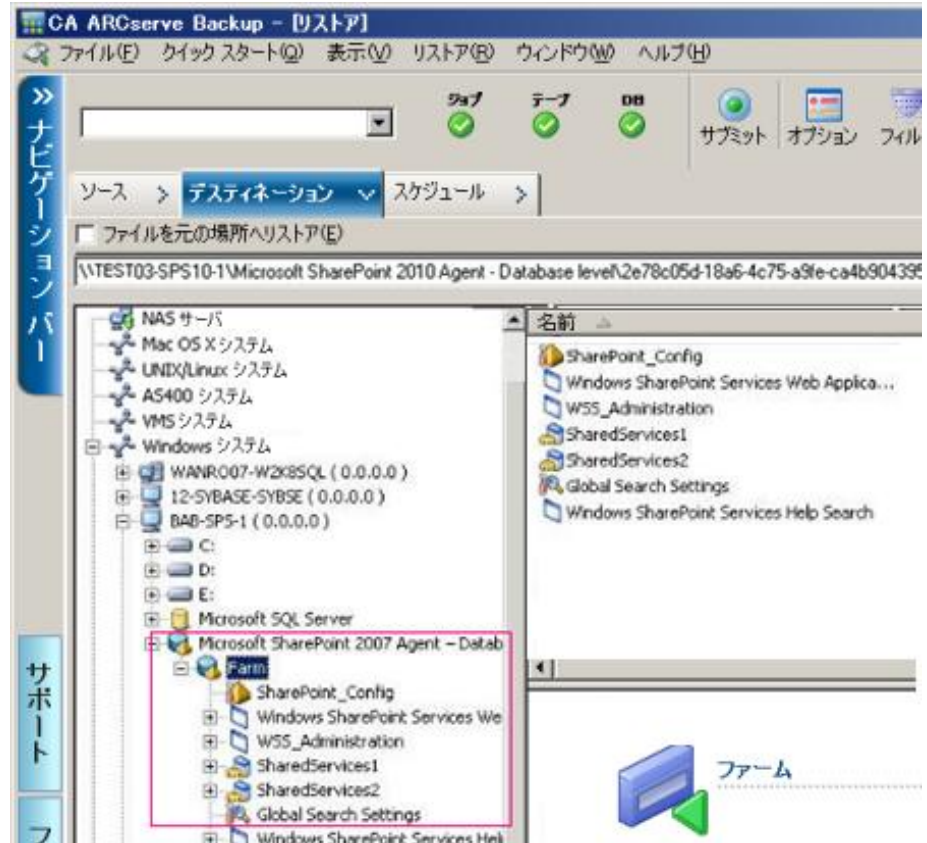
シングルバックアップ ジョブのファームの下で複数のコンポーネントを選択する場合、複数のファーム オブジェクトが表示されます。各ノードは、バックアップする選択されたコンポーネントと関連付けられます。たとえば、Web アプリケーションおよび SharePoint プロバイダ サービスを選択する場合は、2 つのファーム オブジェクトが生成されます。1 つのファーム オブジェクトには Web アプリケーションがあり、もう 1 つのファーム オブジェクトには SharePoint Provider サービスがあります。

同じファームまたはコンポーネントを複数回バックアップする場合は、このコンポーネントの最新バックアップを表示するファーム オブジェクトのみが表示されます。

3. ディレクトリ ツリーから、[Windows システム] オブジェクトを展開して、バックアップしたデータベースを含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。
4. リストアするバックアップが最新のバックアップでない場合は、リストアする復旧ポイントセッションを選択します。
5. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択してリストア オプションを選択します。リストア オプションの詳細については、「SharePoint 2007 のデータベース (75P.) レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス」を参照してください。
6. [デスティネーション] タブをクリックします。データベース オブジェクトは元の場所 (デフォルト) 、または別の場所にリストアすることができます。

- 別の場所にリストアする場合、[ファイルを元の場所にリストア] チェックボックスをオフにして、[Windows システム] オブジェクトを展開し、リストア先のサーバを展開し、[Microsoft SharePoint 2007 - データベース レベル] オブジェクトを選択します。

注: 別の場所にリストアする場合は、リストア先としてファーム オブジェクトを選択する必要があります。



- ツールバーの [サブミット] をクリックします。[リストア環境設定] ダイアログ ボックスに必要な情報を入力します。

別の場所にリストアする場合、[セキュリティ] ダイアログ ボックスが表示された後で、リストア先のサーバのユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

9. [セッションユーザ名およびパスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。

注: ユーザ名は以下のフォーマットで入力する必要があります。

<ドメイン>*<ユーザ名>

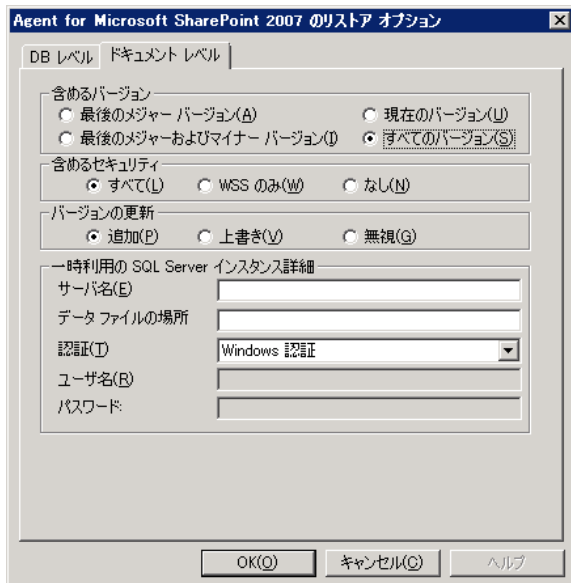
10. [OK] をクリックします。
11. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
12. ジョブの説明を入力し、[OK] をクリックします。

重要: リストアの実行後、Internet Information Services (IIS) を再起動する必要があります。

SharePoint 2007 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス

ドキュメントレベルのリストア ジョブを作成する場合、[ドキュメントレベル] タブを使用してリストア オプションを指定し、ジョブをカスタマイズすることができます。

ソースを選択し、[エージェント オプション] をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストア オプション] ダイアログ ボックスが開きます。[ドキュメントレベル] タブを選択し、オプションを設定します。



[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストア オプション] ダイアログ ボックスには、以下のオプションが含まれます。

含めるバージョン

ドキュメントバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャーバージョン - 最後のメジャーバージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナーバージョン - 最後のメジャーおよびマイナーバージョンのコンテンツを含めます。
- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。

- すべてのバージョン (デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティ グループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべて (デフォルト) - ユーザ メンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。

- WSS のみ - ユーザ メンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。

- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加 (デフォルト) - デスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

一時利用の SQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名およびインスタンス名です。
- データ ファイルの場所 - この場所は、データベース バックアップ ダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベース ファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要があります。また、既存のパスを指定する必要があります。

注: SQL Server インスタンスには、データ ファイルの場所へのアクセス権限がある必要があります。

- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
- Windows 認証 (デフォルト) - 接続に使用するユーザ名およびパスワードを入力できます。
- SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

注: 一時利用の SQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint データベース サーバのバージョンと同じである必要があります。

[SharePoint 2007 Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックス

別の場所へのドキュメント レベル リストアを実行する際には、
[SharePoint 2007 Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスを設定する
必要があります。

リストア マネージャの [デスティネーション] タブを選択した後、ツール
バーの [サブミット] をクリックします。 [SharePoint 2007 Agent リス
トア環境設定] ダイアログ ボックスが開きます。

SharePoint 2007 Agent リストア環境設定

以下のパラメータは、サイト コレクションのリストア時に必要である場合、空のサイト コレクションを作成するために使用されます。

サイト コレクション

Farm¥Windows SharePoint Services Web Application¥SharePoint - 10002 ¥WSS_Content_10002¥

デスティネーション サイトのフル URL:

所有者のログイン:

所有者の電子メール:

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

以下のパラメータの情報を入力する必要があります。

デスティネーション サイトのフル URL

サイト コレクションのリストア先のデスティネーションを指定しま
す。

所有者ログイン

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。 デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザアカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

所有者電子メール

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。

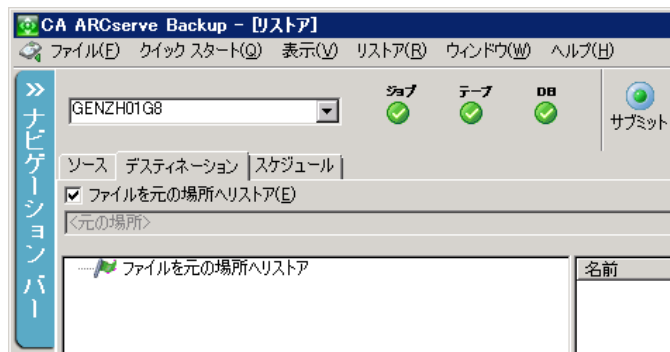
デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザアカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

SharePoint 2007 の元の場所へのドキュメントレベル リストアの実行

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用してドキュメント レベルのデータ リストアを実行します。

サイト コレクションを元の場所へリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。
[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウンリストで [ツリー単位] を選択します。
3. ディレクトリ ツリーから、**Windows** システム オブジェクトを展開し、データベース ノードの下のサイト コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。
4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション] タブをクリックします。元の (デフォルト) 場所へデータベース オブジェクトをリストアできます。



6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。
7. [セッション ユーザ名およびパスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。
[OK] をクリックします。

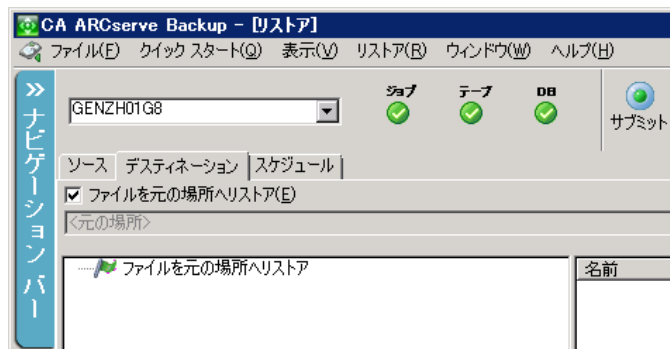
8. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
9. ジョブの説明を入力し、[OK] をクリックします。
サイト コレクションがリストアされます。

SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメントレベル リストアの実行

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用してドキュメント レベルのデータ リストアを実行します。

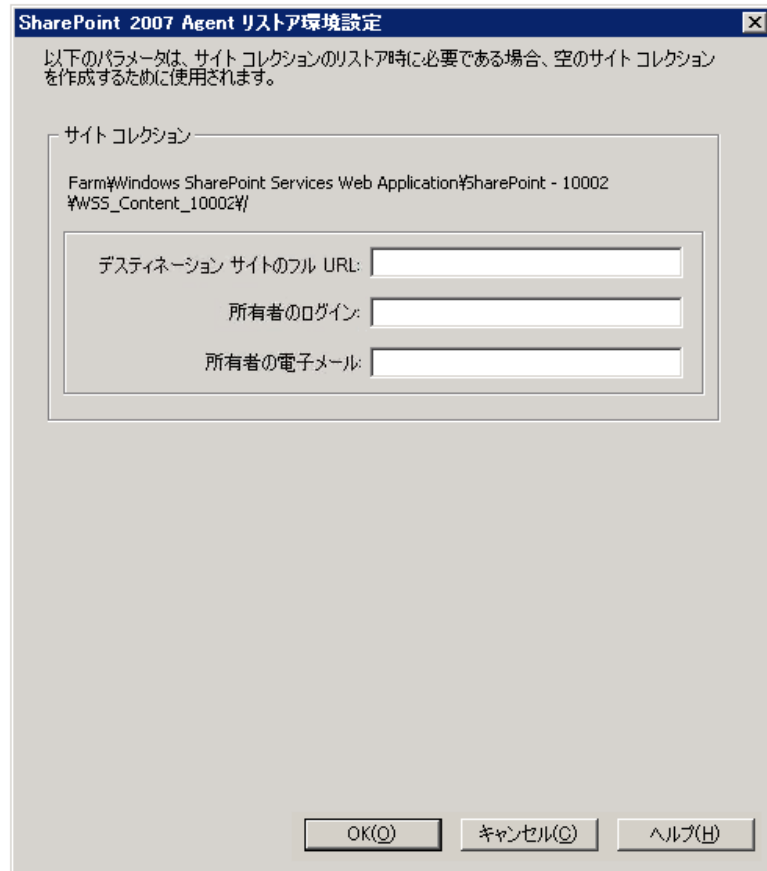
サイト コレクションを元の場所または別の場所へリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。
[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウンリストで [ツリー単位] を選択します。
3. ディレクトリ ツリーから、**Windows** システム オブジェクトを展開し、データベース ノードの下のサイト コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。
4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション] タブをクリックし、デスティネーションとしてファーム オブジェクトを選択します。別の場所の詳細については、「[ドキュメントレベルリストアのデスティネーションフォルダ \(P. 64\)](#)」を参照してください。



注: 別の場所にリストアする場合は、リストア先としてファーム オブジェクトを選択する必要があります。

6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。[リストア環境設定] ダイアログ ボックスに必要な情報を入力します。



7. [セッション ユーザ名およびパスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。
[OK] をクリックします。
8. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
9. ジョブの説明を入力し、[OK] をクリックします。
サイト コレクションがリストアされます。

Agent for Microsoft SharePoint Server の制限

Agent for Microsoft SharePoint Server は、SharePoint システムのドキュメントレベルまたは詳細レベルのリストア処理の一部を実行できません。このエージェントでは、以下をリストアすることはできません。

- 環境設定またはアプリケーションデータ。そのため、Web アプリケーションまたはアプリケーション ページ用に開発されたバイナリはリストアできません。
- カスタマイズされたサイト定義、リスト定義、コンテンツ タイプ定義、フィールド定義。
- アラート、監査証跡、変更ログ履歴、チェックイン/チェックアウト状態のアイテム、ごみ箱のアイテム、ごみ箱の状態、セキュリティ状態、ワークフロー タスクおよびワークフロー状態。
- 外部 BLOB ストア (EBS)。
- 別の場所への調査リストなどのリスト項目。調査全体のリストアのみ実行できます。
- ルート Web サイト。
- チーム ディスカッションおよび PKI リスト などの項目バージョン。
- DB レベルのリストアの実行中に管理サイトの下で作成されたドキュメント。

他の制限

- ファイルに 1 つしかバージョンがなく、それがチェックアウト状態の場合、エージェントはこのファイルをリストアできません。
 - リスト/サイト/サイト コレクションの元の場所へのリストアでは、ごみ箱からリスト項目をリストアしません。ただし、以下の手順を実行してリストアを試行することができます。
 - a. サイト レベルおよびサイト コレクション レベルの両方でごみ箱を空にします。
 - b. これらのリスト項目を別々にリストアします。
- 注:** リストにはドキュメント ライブラリが含まれません。
- 2 つの異なるドメイン間ではセキュリティ設定の互換性がないため、あるドメインから別のドメインにリストアすることはお勧めしません。

重要: オブジェクト、リスト項目やフォルダ、リスト、または **Web** を元の場所にリストアする場合、オブジェクトの親の場所が存在することを確認する必要があります。

第 7 章：推奨事項

このセクションでは、SharePoint 2007 システムで caab> Agent for Microsoft SharePoint Server を使用する際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[適切な場所の選択方法 \(P. 95\)](#)

[ダンプの場所へのアクセス権の設定 \(P. 96\)](#)

適切な場所の選択方法

バックアップおよびリストアの両方にとって適切な場所を選択する必要があります。以下の考慮点が適用されます。

- ディスク上の空き容量 - The Agent for SharePoint 2007 は、バックアップおよびリストア中にダンプの場所でデータを保存します。バックアップするコンポーネントすべてを保持するのに十分なディスク容量があることを確認します。バックアップジョブに必要なディスク容量を確認したい場合は、バックアップマネージャを開いて、バックアップするコンポーネントを選択して、必要なディスク容量を確認します。

必要なオブジェクト ディスク サイズ	3,318,633,869 バイト
--------------------	-------------------

ダンプの場所へのアクセス権の設定

- 使用可能なネットワーク帯域幅 - ネットワーク トラフィックおよびかかるコストによって、差分ダンプの場所の使用可能なネットワーク帯域幅を選択する必要があります。以下の点を考慮してください。
 - CA ARCserve Server は、データを 1 度だけ転送するため、あまりコストがかかりません。
 - CA ARCserve SharePoint Agent (ローカル マシン) およびその他 (NAS、ファイル) のサーバ名は、データを 2 度転送することがあるので、コストがかかります。
 - ARCserve Server および SharePoint 2007 Agent の場所 - CA ARCserve SharePoint Agent (ローカル マシン) およびその他の (NAS、ファイル) のサーバ名は、以下の 4 つのシナリオをすべてサポートします。
 - エージェントおよびサーバは、1 つのウィンドウ ドメインにインストールされます。
 - エージェントおよびサーバは、2 つの異なるドメインにインストールされ、ドメインはもう 1 つのドメインを信頼します。
 - エージェントおよびサーバは、異なる Windows ドメインにインストールされ、信頼関係はありません。
 - エージェントまたはサーバの片方がワークグループにインストールされ、もう片方はドメインにインストールされます。
- 注: CA ARCserve Server は、上記の最初の 2 つのシナリオのみをサポートします。

ダンプの場所へのアクセス権の設定

以下の表内のアカウントは、共有フォルダにアクセスできます。

アカウント	バックアップに関するダンプの場所のアクセス権	バックアップに関するダンプの場所のアクセス権
データベース サーバの SQL アカウント	フル コントロール以外のすべてのアクセス権	読み取り権限
タイム サービス アカウント	フル コントロール以外のすべてのアクセス権	読み取り権限
セントラル管理プール アカウント	フル コントロール以外のすべてのアクセス権	フル コントロール以外のすべてのアクセス権

データベース サーバの SQL アカウントがローカル システム上にある場合は、必要な権限を SQL サーバ コンピュータに付与します。共有フォルダへのアクセス権を割り当てられているユーザを確認したい場合は、バックアップ マネージャを開き、アカウントを選択して、共有フォルダへのアクセス権のあるユーザのリストを確認します。

バックアップ リストア 共有フォルダ 権限 ユーザ リスト	Arthur (Arthur-W35-2)
----------------------------------	-----------------------

SQL Server アカウントには、以下の単一サーバおよびサーバ ファームの標準的な要件が含まれます。

注: SQL Server サービス アカウントを仮想アカウントとして定義した場合、バックアップとリストアのジョブは失敗します。

	アカウント	標準的な要件
単一サーバ	SQL Server サービス	ローカル システム アカウント (デフォルト)
サーバファーム	SQL Server サービス	ローカル システム アカウントまたはドメイン ユーザ アカウント
	重要: このアカウントは <i>SharePoint</i> サーバにのみ適用されます。	

付録 A: エージェントによって使用される Microsoft SharePoint Server の機能

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Microsoft SharePoint Server 2013 の機能](#) (P. 99)

[Microsoft SharePoint 2013 データ](#) (P. 100)

[Microsoft SharePoint Server 2010 の機能](#) (P. 103)

[Microsoft SharePoint 2010 データ](#) (P. 104)

[Microsoft SharePoint Server 2007 の機能](#) (P. 106)

[Microsoft SharePoint 2007 データ](#) (P. 107)

Microsoft SharePoint Server 2013 の機能

エージェントでサポートされる SharePoint Server 2013 ファーム コンポーネントは以下のとおりです。

- Forms Service
- License to Feature Mappings
- State Service
- Web Application
- Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service
- SharePoint Server Search
- Access Services 2010 Web Service
- Secure Store サービス
- PowerPoint Conversion Service
- PerformancePoint Service
- Visio Graphics Service
- Managed Metadata
- App Management Service
- Excel Services Application Web Service アプリケーション
- Security Token Service アプリケーション

- Machine Translation Service
- Word Automation Services
- User Profile Service
- Business Data Connectivity Service
- Work Management Service
- Access Services Web Service
- Search Service

Microsoft SharePoint 2013 データ

Agent for Microsoft SharePoint Server は、以下の SharePoint データのバックアップをサポートします。

- SharePoint Server ファーム
- FormsServiceBackup
- Forms Service
- DataConnectionFileCollection
- FormTemplateCollection
- ExemptUserAgentCollection
- License to Feature Mappings
- State Service
- Web Application
- Web Application コンテンツ データベース
- Microsoft.Office.Server.Administration.StateServiceProxy
- Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service
- SharePoint Server Search
- Access Services 2010 Web Service アプリケーション
- Secure Store Service アプリケーション
- PowerPoint Conversion Service アプリケーション
- PerformancePoint Service アプリケーション

- Visio Graphics Service アプリケーション
- Managed Metadata Service
- App Management Service アプリケーション
- Excel Services Application Web Service アプリケーション
- Security Token Service アプリケーション
- Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPClaimEncodingManager
- Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPSecurityTokenServiceManager
- Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPClaimProviderManager
- Machine Translation Service
- Word Automation Services
- User Profile Service アプリケーション
- Business Data Connectivity Service アプリケーション
- Work Management Service アプリケーション
- Access Services Web Service アプリケーション
- Search Service アプリケーション
- Microsoft.Office.Server.Search.Administration.SearchAdminDatabase
- Business Data Connectivity Service アプリケーションプロキシ
- PowerPoint Conversion Service アプリケーションプロキシ
- Machine Translation Service プロキシ
- Word Automation Services プロキシ
- Access Services Web Service アプリケーションプロキシ
- Access Services 2010 Web Service アプリケーションプロキシ
- Managed Metadata Service Connection
- PerformancePoint Service アプリケーションプロキシ
- Secure Store Service アプリケーションプロキシ
- Search Service アプリケーションプロキシ
- Work Management Service アプリケーションプロキシ

- App Management Service アプリケーションプロキシ
- User Profile Service アプリケーションプロキシ
- Visio Graphics Service アプリケーションプロキシ

注: このガイドでは、後方互換性ドキュメントライブラリ、および検索インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。

ファイルシステムのバックアップを使用して、フロントエンド Web サーバに保存されている設定ファイルおよびカスタマイズしたテンプレートを保護します。エージェントは、以下のファイルに対するサポートは提供しません。

- IIS (Internet Information Server) メタベース
- SharePoint の拡張仮想サーバールートディレクトリ
- カスタム Web パート アセンブリ
- カスタムの SharePoint テンプレートおよび構成ファイル
- SharePoint サイトで使用されるすべてのアドオン ソフトウェア

これらの情報は、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows を使用して完全に保護できます。このエージェントの使用についての詳細は、「Client Agent ユーザ ガイド」を参照してください。

Microsoft SharePoint Server 2010 の機能

エージェントでサポートされる SharePoint Server 2010/2013 ファーム コンポーネントは以下のとおりです。

- Web アプリケーション
- Single Sign-On (SSO) database
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search settings
- Secure Store Service
- Office SharePoint Server State Service
- Managed Metadata Web Service
- Web Analytics Web Service
- People
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcService
- Excel Calculation Service
- Word Conversion Service
- Access Service
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileServiceProxy
- Microsoft.Office.SecureStoreService.Server.SecureStoreServiceProxy
- Managed Metadata Web Service Proxy
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceProxy
- Word Conversion Service
- Search Service Application Proxy Collection
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcServiceProxy
- Office SharePoint Server State Service Proxy
- InfoPath Forms Services
- Visio Graphics Service
- Search Service Application

Microsoft SharePoint 2010 データ

Agent for Microsoft SharePoint Server は、以下の SharePoint データのバックアップをサポートします。

- SharePoint Server ファーム
- Web Application
- Web Application コンテンツ データベース
- Single Sign-On データベース
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search Settings
- Secure Store Service
- Secure Store Service アプリケーション
- Office SharePoint Server State Service
- Managed Metadata Web Service
- Managed Metadata Service アプリケーション
- Web Analytics Web Service
- Web Analytics Service アプリケーション
- Web Analytics Stager Database
- Web Analytics Warehouse Database
- People
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileApplication
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcService
- Business Data Catalog Service アプリケーション
- Excel Calculation Service
- Excel Services Web Service アプリケーション
- Word Conversion Service
- Word Conversion Service アプリケーション
- Access Service
- Access Services アプリケーション
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileServiceProxy
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileApplicationProxy

- Microsoft.Office.SecureStoreService.Server.SecureStoreServiceProxy
- Secure Store Service アプリケーションプロキシ
- Managed Metadata Web Service プロキシ
- Managed Metadata Web Service アプリケーションプロキシ
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceProxy
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceApplicationProxy
- Word Conversion Service
- Word Conversion Service アプリケーション
- Search Service アプリケーションプロキシ コレクション
- Search Service アプリケーションプロキシ
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcServiceProxy
- Business Data Catalog Service アプリケーションプロキシ
- Office SharePoint Server State Service プロキシ
- State Service Application プロキシ
- InfoPath Forms Services
- InfoPath Forms Services Settings
- Data Connections
- Form Templates
- Exempt User Agents
- Visio Graphics Service
- Graphics Service アプリケーション
- Search Service アプリケーション
- Administration Database
- Property Database
- Crawl Database

注: このガイドでは、後方互換性ドキュメントライブラリ、シングルサインオン (暗号化キー コンポーネントのみ)、および検索インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。

ファイルシステムのバックアップを使用して、フロントエンド Web サーバに保存されている設定ファイルおよびカスタマイズしたテンプレートを保護する必要があります。エージェントは、以下のファイルに対するサポートは提供しません。

- IIS (Internet Information Server) メタベース
- SharePoint の拡張仮想サーバルートディレクトリ
- カスタム Web パート アセンブリ
- カスタムの SharePoint テンプレートおよび構成ファイル
- SharePoint サイトで使用されるすべてのアドオン ソフトウェア

これらの情報は、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows を使用して完全に保護できます。このエージェントの使用についての詳細は、「Client Agent ユーザガイド」を参照してください。

Microsoft SharePoint Server 2007 の機能

エージェントでサポートされる SharePoint Server 2007 ファーム コンポーネントは以下のとおりです。

- Web Application
- SharePoint Services Provider (関連する検索インデックスを含む)
- Single Sign-On (SSO) database
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search settings

Microsoft SharePoint 2007 データ

Agent for Microsoft SharePoint には、Windows システムが必要です。以下の SharePoint データのバックアップがサポートされています。

- SharePoint Server ファーム
- Web Application
- Web Application コンテンツ データベース
- Single Sign-On データベース
- Windows SharePoint Services Help Search
- Shared Services Provider
- Shared Services Provider コンテンツ データベース
- Global Search Settings

注: このガイドでは、後方互換性ドキュメント ライブラリ、シングルサインオン (暗号化キー コンポーネントのみ)、および検索インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。

付録 B: 惨事復旧

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SharePoint 2010/2013 システム上でのデータベース レベルの惨事復旧の実行方法 \(P. 109\)](#)

[SharePoint 2007 システム上でのデータベース レベルの惨事復旧の実行方法 \(P. 110\)](#)

SharePoint 2010/2013 システム上でのデータベース レベルの惨事復旧の実行方法

ファーム内の 1 つ以上のコンピュータがクラッシュすると、ファーム全体またはいくつかのコンポーネントが破損することがあります。障害が発生した場合は、以下の手順に従って SharePoint データをリストアする必要があります。

1. コンピュータ上のオペレーティング システムをリストアします。CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option は、これらの手順を自動化するオプション製品です。詳細については、「*Disaster Recovery Option ユーザガイド*」を参照してください。
2. 必要なアプリケーションが操作できることを確認します。SQL Server は、Microsoft SQL Server がインストールされているコンピュータ上で実行する必要があります。フロントエンド Web サーバおよびアプリケーションサーバには、SharePoint Server 2010/2013 が必要です。
3. 以下を考慮してください。
 - スタンドアロンサーバ - Microsoft SQL Server 2008 Express
 - 単一サーバファームのデータベースサーバ - SQL Server 2008 Express
4. ファーム全体を復旧する場合は、Microsoft SharePoint 製品とテクノロジ構成ウィザードを使用して新しいファームを作成する必要があります。SharePoint 製品とテクノロジの詳細については、Microsoft のドキュメントを参照してください。
5. 新規ファームを作成した後は、バックアップ操作を開始する前に、すべてのバックアップ サービスが SharePoint 2010/2013 Central Admin で実行されていることを確認してください。

SharePoint 2007 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法

ファーム内の1つ以上のコンピュータがクラッシュすると、ファーム全体またはいくつかのコンポーネントが破損することがあります。障害が発生した場合は、以下の手順に従って SharePoint 2007 データをリストアする必要があります。

1. コンピュータ上のオペレーティング システムをリストアします。CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option は、これらの手順を自動化するオプション製品です。詳細については、「*Disaster Recovery Option ユーザガイド*」を参照してください。
2. 必要なアプリケーションが操作できることを確認します。SQL Server は、Microsoft SQL Server がインストールされているコンピュータ上で実行する必要があります。フロントエンド Web サーバおよびアプリケーションサーバには、SharePoint 2007 が必要です。
3. ファーム全体を復旧する場合は、SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを使用して新しいファームを作成する必要があります。SharePoint 製品とテクノロジーの詳細については、Microsoft のドキュメントを参照してください。
4. 新しいファームを作成した後で、以下のサービスが SharePoint 2007 Central Admin で実行中であることを確認します。
 - Windows SharePoint Services Help Search、Office SharePoint Server Search、および Excel Calculation Services for SharePoint 2007 Farm
 - Windows SharePoint Services 3.0 Farm 用の Windows SharePoint Services Search
5. 新しいファームがスタンドアロン設定の場合は、デフォルトの共有サービスプロバイダ (SharedService1) の名前を、元のファームに存在しない新しい名前に変更する必要があります。リストアの実行後、共有サービスプロバイダを削除できます。
6. ファームまたはそのコンポーネントをリストアします。データベースを SharePoint 2007 にリストアする方法については、「データベース (80P.) レベルのデータ リストアの実行」を参照してください。

付録 C: Microsoft SQL Server のセキュリティ設定

この付録では、CA ARCserve Backup 用に Microsoft SQL Server のセキュリティを設定する方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Microsoft SQL 認証の種類 \(P. 111\)](#)

[認証要件 \(P. 111\)](#)

[Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更 \(P. 112\)](#)

Microsoft SQL 認証の種類

Microsoft SQL Server には、次の 2 種類のユーザ認証方法が用意されています。

- Windows ログイン認証を使用する方法
- Microsoft SQL Server 固有のユーザ認証を使用する方法

Microsoft では可能な限り Windows 認証のみを使用するよう推奨していますが、Microsoft SQL Server 認証の方が適切な場合や、Microsoft SQL Server 認証が必要な場合があります。たとえば、データベースがクラスタで実行されている場合には、Microsoft SQL Server 2000 または 2005 の Microsoft SQL Server 認証を使用する必要があります。クラスタの詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

認証要件

Microsoft SQL Server 認証を使用する場合は、管理者権限を持つユーザアカウントを指定する必要があります。デフォルトでは、Microsoft SQL Server によって管理者権限を持つ「sa」というアカウントが作成されます。ただし、Agent for Microsoft SharePoint Server では、同等の権限を持つアカウントであるならどれでも使用できます。

Windows 認証を使用している場合、データベースが実行中のマシンに対して管理者と同等の権限を持つアカウントは、通常そのデータベースに対するシステム管理者アクセス権限を持っています。

注: Microsoft SQL Server の BUILTIN\Administrators ログインエントリが削除されているか、このエントリに管理者権限が含まれていない場合、または管理者権限を持たないユーザ用の別の Microsoft SQL Server ログインエントリがある場合は、そのデータベースに対するシステム管理者権限が Windows 管理者またはドメイン管理者に自動的に付与されることはありません。

Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更

CA ARCserve Backup を使用して、Microsoft SQL Server 認証方法を確認または変更することができます。

Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更の方法

1. Microsoft SQL Server を実行中のシステムで、Microsoft SQL Server Enterprise Manager を開きます。
2. [ツリー] ペインで [コンソールルート] を展開して、該当するデータベース サーバを見つけます。
3. そのサーバ名を右クリックしてドロップダウンリストから [プロパティ] を選択します。
[プロパティ] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [プロパティ] ダイアログ ボックスで [セキュリティ] タブをクリックします。
5. [認証] フィールドで、以下のオプションからいずれかを選択します。

Microsoft SQL Server および Windows

Microsoft SQL サーバベースの認証を有効にします。

Windows のみ

Windows ユーザ名とパスワードのみを有効にします。

6. [OK] をクリックします。
ユーザ認証処理が設定されました。

付録 D: トラブルシューティング

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server を使ったバックアップやリストアに関する問題のトラブルシューティングには、以下の情報が用意されています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[AE9972 \(P. 113\)](#)

[サイト コレクションを元の場所へリストアできない \(P. 114\)](#)

AE9972

イベント OnRestore において、AE9972 オブジェクト <Component Name> の失敗エラーを受信した場合は、以下のタスクを実行してください。

1. Windows SharePoint Services Administration として表示される SPAdmin Windows サービスを開始します。
2. SharePoint 3.0 Central Administration Web サイトにアクセスし、
[Operations] - [Topology and Services] - [Services on Server] を選択します。
3. エージェント マシン サーバを選択し、[Custom] ラジオ ボックスを選択します。
4. [Central Administration] をクリックします。
5. [Start] をクリックします。
6. 失敗したジョブを再実行します。

サイトコレクションを元の場所へリストアできない

サイトコレクション URL を削除すると、削除された元の場所へサイトコレクションをリストアしても失敗します。

以下の手順を実行します。

1. 別の場所へのリストアを実行します。
2. 元の SharePoint Server を選択します。
3. [Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスに新しい URL を入力し、リストアプロセスを完了します。

詳細情報:

[SharePoint 2010/2013 で別の場所へのドキュメント レベル リストアを実行 \(P. 67\)](#)

[SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメント レベル リストアの実行 \(P. 91\)](#)

用語集

データベース レベルのバックアップ

データベース レベルのバックアップでは、SharePoint Server 2010/2013 または SharePoint Server 2007 のデータベース ファイルがすべてバックアップされます。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベース レベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

データベース レベルのリストア

データベース レベルのリストアでは、SharePoint Server 2010/2013 または SharePoint Server 2007 のデータベース ファイルがすべてリストアされます。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧が発生した場合に SharePoint Server をリストアするために使用します。

ドキュメント レベルのリストア

データベース レベルのリストアに対し、ドキュメント レベルのリストアは、事前にバックアップされた SharePoint Server 2010/2013 または SharePoint Server 2007 のドキュメント レベルのコンポーネントを選択し、リストアするために使用します。